

P D C A チェックシート (平成 27 年度実績評価)

		担当局	市民文化スポーツ局				
		担当課	自然史・歴史博物館普及課				
		課長名	永元				
		施策番号					
		I - 1 - (2) - ⑤					
事業名	博物館セカンドスクール事業						
事業概要	博物館を第二の学校と位置づけ、修学旅行・社会見学など学校教育の一環として、子どもたちの博物館利用の促進を図るものです。				事業手法 <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()		
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.05 人
		2,084 千円	千円			16,075 千円	係長 0.50 人 職員 1.40 人

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 今後も学校団体などによる博物館利用を推進していくため、社会見学や修学旅行などの学校団体誘致の継続や団体受け入れ体制の確保が求められています。	見直し内容	「にぎわいづくりによる集客交流産業の拡充」の一環として、修学旅行など市外からの来館者増加に向け、教育的な体験プログラムの充実を図ります。また、多くの学校団体の受け入れに対応するため、ボランティア組織の機能充実を図り、受け入れ体制の確保に努めます。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	学校団体	博物館を第二の学校(教室)としてとらえ、子どもたちの来館機会を創出し、新しい発見や感動をもとに理科・社会科への学習の意欲を持たせる仕組みづくりを行うため、(1)博物館への誘致事業、(2)学校教育支援事業、(3)家庭教育支援事業、の3つの柱をかかげ、学校教育現場と博物館の結びつきを強めます。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	学校団体誘致数	1,370 団体	1,000 団体		
	博物館を訪れる学校団体を増やすため、市内市外の学校関係者などへの誘致活動を行い、来館者数の確保に努めます。 (最終目標と目標年度) 1,000団体 平成28年度				
学校関係入館者数	92,760 人	70,000 人			
修学旅行、社会見学等、総合的な学習の時間などでの学校関係者の博物館利用の促進を図ります。 (最終目標と目標年度) 70,000人 平成28年度					

活動計画	どうやって目的を達成するか 修学旅行、社会見学、総合的な学習の時間などでの博物館利用の促進を図るため、来館状況の分析に基づく誘致活動を行います。特に、県内の来館実績の少ない地域へのPR活動の強化を図ります。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	誘致活動延べ日数	12 日	10 日		
	修学旅行、社会見学、総合的な学習の時間などでの博物館利用が促進されるよう、旅行会社等に対する誘致活動を実施します。				

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

P D C A チェックシート (平成 27 年度実績評価)

		担当局	市民文化スポーツ局				
		担当課	市民活動推進課				
		課長名	山田				
事業名	NPO・ボランティア活動促進事業			施策番号			
				I - 3 - (2) - ②			
事業概要	NPOやボランティアなどの市民活動の促進に加え、NPOと行政の協働を推進するため、活動や協働等に関する相談・助言、情報提供、研修・啓発事業を実施するとともに、NPO法人の設立を支援します。			<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()			
				(人件費備考)			
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.30 人
		17,664 千円	千円			19,200 千円	係長 0.60 人 職員 1.30 人

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 計画どおり推移していますが、NPO・ボランティア活動を促進するためには、新たな活動参加者の掘り起しが必要です。	見直し内容	NPO・ボランティア活動に関する相談・助言、情報提供などの支援を引き続き行うとともに、市民向けのNPO活動等の入門講座や講演会の充実を図ります。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	市民、NPO等	地域の課題に自ら対応し、市民が自発的、主体的に公益活動に参画する市民社会の形成に向けて、まちづくりの重要な担い手であるNPOやボランティア団体などの活動を促進します。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由
	新規設立NPO法人数(累計)	31 法人	60 法人		
	市民が主体的に発足させたNPO法人数です。 (最終目標と目標年度) 平成28年度 75法人				
	市民活動サポートセンター利用者数(単年度)	22,935 人	23,500 人		
	今後、市民活動に携わりたい方々や、既に活動に取り組んでいる団体等からの相談や施設利用など、市民活動サポートセンターの利用者数です。 (最終目標と目標年度) 平成28年度 24,000件				

活動計画	どうやって目的を達成するか 市民活動サポートセンターを拠点に、NPO・ボランティア団体に関する総合的な相談・助言、NPO・ボランティア活動情報の提供、専門講座・講演会等の研修・啓発を実施します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	講座実施数	12 講座	12 講座		
	今後、市民活動に携わりたい方々への啓発や、既に活動に取り組んでいる団体の運営強化、活動の充実を支援する講座を開催します。				
	広報誌などの発行	12 回	12 回		
	市民活動に取り組む団体等に、他団体の活動やイベント、助成金など、活動に役立つ情報を提供するため、広報誌を発行します。				

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果)の分析 ※民間活力導入の視点

P D C A チェックシート (平成 27 年度実績評価)

		担当局	市民文化スポーツ局			
		担当課	消費生活センター			
		課長名	愛甲			
		施策番号				
		Ⅱ - 1 - (1) - ②				
事業名	消費者啓発の推進					
事業概要	消費者に対する啓発活動を推進するとともに、消費者が自主性を持って健全な消費生活を営むことができるよう支援します。				事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	
コスト	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.05 人
	26,656 千円	千円			8,075 千円	係長 0.30 人 職員 0.60 人

【Action】改善			
課題	H25年度の 評価結果 を受けて の課題	市民向けの啓発活動は予定通り実施していますが、より効果的・効率的な啓発活動が求められています。	見直し内容 幅広い年代に向け、様々な場を活用した啓発・消費者教育を実施し、自立した消費者を育成するとともに、地域での見守りの輪を広げます。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	市民	自主的に問題意識を持つことにより、消費者被害にあわない、被害を拡大させない状態にします。				
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由	
	消費生活センターの認知度	88 %	90 %			
	消費者トラブル、多重債務問題及び悪質商法被害等の未然防止と拡大防止のため、消費者啓発施策の推進により、相談窓口である消費生活センターの認知度90パーセント以上を維持します。 (最終目標と目標年度) 90%以上 毎年度					
	消費生活センター等の相談窓口にご相談又は相談を勧める市民の割合	-	90 %			
	消費者被害の未然防止と拡大防止のため、消費者自身や周りの人が消費者トラブルに遭ったときに、消費生活センター等の相談窓口にご相談する、又は相談を勧める市民の割合90パーセント以上を目指します。 (最終目標と目標年度) 90%以上 毎年度					

活動計画	どうやって 目的を達成するか	出前講座や各種イベントなどによる消費者啓発・教育の充実を図り、トラブルの実態をいち早く周知することで、被害の未然防止に取り組みます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由	
	消費者啓発・教育講座等の参加者数	- 人	5,000 人			
	出前講座や各種イベントにより、多くの市民に消費者問題に関する知識を普及させます。					
	消費者トラブル無料法律相談会の実施回数	102 回	100 回			
	消費者に法律相談を利用する機会を定期的に提供します。					

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

P D C A チェックシート (平成 27 年度実績評価)

事業概要		担当局	市民文化スポーツ局
		担当課	安全・安心推進課
		課長名	守口
事業名	日本トップクラスの安全・安心なまちづくり関連事業	施策番号	
		II - 1 - (3) - ①	
事業概要	安全・安心条例行動計画の目標となる、日本トップクラスの安全・安心なまちづくりを推進するため、本市の刑法犯認知件数の減少に向け、特に件数の多い罪種に焦点をあて、警察、関係団体等と連携し、市民等の防犯意識の向上に取り組めます。 また、市民や事業者、学生等の自主防犯活動の活発化を図り、地域の「見守りの目」を増やすとともに、道路や公園など公共施設の整備に、犯罪が起こりにくい環境づくりの考え方を取り入れ、より安全・安心なまちづくりを推進します。	事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
			()
コスト	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考) 市民一斉夜間の安全・安心パトロール事業 (4,800千円) と (仮称) 学生安全・安心ボランティアサミットの開催事業 (5,000千円) は平成26年度補正予算で計上し繰越したものを 人件費
	25,155 千円	千円	目安の金額 課長 0.70 人 係長 1.80 人 職員 3.80 人 (人件費備考)

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	平成26年7月に施行された安全・安心条例に基づき、安全・安心なまちづくりに関する施策を総合的、計画的かつ継続的に推進するための行動計画を策定し、推進する必要があります。	見直し内容 平成27年度 新規事業

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象 (誰を、何を)	市民、地域団体、事業者、学校、市	目指す状態 (どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	行動計画の目標達成に向け、警察、事業者、地域団体、NPO等と連携し、本市の刑法犯認知件数の上位を占める犯罪防止に向けた取組みを推進します。また、地域住民のきずなを深める安全・安心に関する活動への参加者の拡大を図るなどにより、市民等の体感治安の向上を図ります。				
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由
	刑法犯認知件数 (警察統計のため暦年でカウント)	12,372 (37件減) 件	前年比減		
	北九州市内の刑法犯認知件数です。平成14年の約4万件をピークに、毎年減少しています。5年後に政令市トップクラスの件数を目指します。 (最終目標と目標年度) 平成26年比 4,000件減 平成31年				
	市民が感じる治安状況 (体感治安)	77 %	前年度比増		
	市民意見調査アンケートで、市民が「とても安全」「比較的安全」と回答する割合の向上を目指します。 (最終目標と目標年度) 90% 平成31年度				

活動計画	どうやって目的を達成するか 特に件数の多い罪種に焦点をあて、警察、関係団体等と連携し、市民等の防犯意識の向上に取り組めます。また、地域の「見守りの目」を増やす「一万人の防犯パトロール大作戦」、「学生防犯ボランティアサミット」等のイベントを実施するとともに、新たに防犯の視点を加えた点検を実施し、道路や公園等の施設整備モデル事業を促進します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由
	地域防犯活動への参加者数	-	13,000 人		
	地域における防犯活動に取り組む市民、事業者の人数です。	-			
	安全・安心なまちづくりのための出前講演、セミナー等の実施回数	-	60 回		
	安全・安心条例の周知及び安全・安心なまちづくりに関する知識の向上を図るために開催する、市民、地域団体、事業者等に対する啓発や出前講演、セミナー等の実施回数です。	-			

【Check】評価 (分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点
	「経済性」 (同成果を低コストで) 「効率性」 (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

P D C A チェックシート (平成 27 年度実績評価)

事業概要						担当局	市民文化スポーツ局
						担当課	安全・安心推進課
事業名 子どもと女性の犯罪被害防止推進事業						課長名	守口
						施策番号	
事業概要 安全・安心条例で特に配慮するとしている、子どもと女性の犯罪被害を防止するため、子どもを見守る家族の防犯意識を高める親と子どもの安全セミナーを実施するとともに、「女性のための安全小冊子」を作成し、講座や出前講演を通じて防犯意識の浸透を図ります。						事業手法	
						<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.20 人 係長 0.70 人 職員 1.80 人
		3,300 千円	千円			22,800 千円	(人件費備考)

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	最近、全国的に子どもの連れ去り事件をはじめとする子どもが被害者となる事件が多く発生しているため、見守りの目を強化する必要があります。また、福岡県では女性が被害者となる犯罪の発生件数が依然高い水準にあるなど憂慮すべき状況にあります。	見直し内容 平成27年度 新規事業

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	市民(子どもとその保護者、女性)	親に、子どもが犯罪に遭う危険性やその回避方法についての正しい防犯知識を学んでもらい、親から子どもへ伝えることで子どもの犯罪被害の防止を図ります。 また、犯罪被害を「ひとごと」ではなく「自分ごと」として認識してもらえよう、女性の防犯意識の向上や防犯活動への関心を高めます。			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	「安全セミナー」「地域安全マップづくり」延べ実施校	—	25 校		
	新年度より「安全セミナー」と「地域安全マップづくり」の対象を保護者にも広げ全小学校での実施を目指します。 (最終目標と目標年度) 125校(前年比較) 平成31年度	—			
	性犯罪認知件数 北九州市内の性犯罪認知件数です。平成25年は前年度と比較して21件増加しています。今後も件数減を目指します。 (最終目標と目標年度) 件数減(前年比較) 平成28年	104 件	前年比減		

活動計画	どうやって目的を達成するか	家族の防犯知識向上のためのリーフレット等を作成し、家族を対象としたセミナーや地域安全マップづくり等を行います。また、女性の犯罪被害防止を啓発するために安全小冊子を作成し、「女性のための犯罪被害防止セミナー」等を開催します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	市内「安全セミナー」「地域安全マップづくり」実施校	—	25 校		
	市内の小学校等で保護者も対象に広げた「安全セミナー」や「地域安全マップづくり」を実施します。	—			
	女性のための犯罪被害防止セミナーの実施回数 企業の女性社員や大学生を対象に「女性のための犯罪被害防止セミナー」を実施します。女性目線で作成した犯罪被害防止のための小冊子を配布し、女性の防犯意識の高揚を図ります。	—	15 回		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 【経済性】 (同成果を低コストで) 【効率性】 (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要						担当局	市民文化スポーツ局
						担当課	安全・安心相談センター
事業名						課長名	眞藤
						事業概要	
安全・安心総合相談ダイヤルの運営						市民からの生活安全に関するあらゆる相談を受けける「安全・安心総合相談ダイヤル」を開設します。	
コスト						27年度当初予算額	49,558 千円
						27年度執行額	千円
(事業費備考)						目安の金額	9,300 千円
見直し内容						課長	0.20 人
						係長	0.40 人
事業手法						職員	0.40 人
						(人件費備考)	

【Action】改善			
課題	H25年度の 評価結果 を受けて の課題	安全・安心に関する窓口が分野別に設置されており必ずしも相談しやすいものとはなっていないかった。	見直し内容 平成27年度 新規事業

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	北九州市	市民からの生活安全に関するあらゆる相談を受けける「安全・安心総合相談ダイヤル」を開設し、市民がより気軽に相談できる体制を作ることで、安全・安心を実現できるまちの実現を目指します。			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由
	安全・安心総合相談ダイヤルの認知度	-	アンケート実施		
	市民アンケートで、市民が「知っている」と回答する割合の向上を目指します。	-			
	(最終目標と目標年度) 前年度比増 毎年度				

活動計画	どうやって 目的を達成するか	行政経験が豊富なOB職員を安全・安心総合相談員として配置し、生活安全に関するあらゆる相談を受け、関係部署と連携し、問題の解決を図ります。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由
	安全・安心総合相談の実施	-	相談の実施		
	総合相談員により、関係部署と連携しながら、問題の解決を図ります。	-			

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点</p> <p>「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p>

P D C A チェックシート (平成 27 年度実績評価)

		担当局	市民文化スポーツ局		
		担当課	安全・安心推進課		
		課長名	守口		
		施策番号			
		II - 1 - (3) - ②			
事業名	地域防犯対策事業				
事業概要	北九州市安全・安心条例では、「市民等は安全・安心に関する意識を自ら高め、行動すること」「市及び市民等は相互に連携を深め、防犯活動を協力して推進すること」と定められています。この事業では、市民の防犯意識を高め、地域住民の自主防犯活動を促進し、安全・安心を実感できるまちの実現を図ります。				
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費
		33,138 千円	千円		目金の金額
				課長 0.10 人	係長 0.35 人 職員 1.50 人
				15,900 千円	
		(人件費備考)			

■ 直営	■ 補助金
□ 全部委託	□ 負担金
■ 一部委託	□ 指定管理
□ その他	
()	

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	市民が互いに支え合い思いやる良好な地域社会の中で防犯の取組みが次の世代に引き継がれるよう新たな担い手を育てることが必要です。	見直し内容
			これまでの地域防犯対策事業に加え、市民・警察・市が連携協力を促進することにより、防犯意識のさらなる向上と自主防犯活動の一層の促進を図り、安全で安心なまちづくりを目指します。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	地域住民	地域住民の防犯意識を高め、地域における自主防犯活動の継続と活動の輪を広げます。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由
	街頭犯罪件数(警察統計のため暦年でカウント)	5,212 (233件減) 件	前年比減		
	北九州市内の街頭犯罪件数です。平成14年の約2万8千件をピークに、毎年減少しています。今後も毎年の件数減を目指します。 (最終目標と目標年度) 前年比減 平成28年				
	市民が感じる治安状況(体感治安)	77 %	前年度比増		
	市民意見調査アンケートで、市民が「とても安全」「比較的安全」と回答する割合の向上を目指します。 (最終目標と目標年度) 前年度比増 平成28年度				

活動計画	どうやって目的を達成するか	安全・安心を実感できるまちを実現するためには、市民による自主的な防犯活動の取組みが重要です。地域の自主防犯組織「生活安全パトロール隊」による防犯パトロールや登下校時の子どもの見守りなどの活動を促進します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	生活安全パトロール隊による年間パトロール平均参加人数	1,436 人	1,500 人		
	各校区の生活安全パトロール隊による、自主防犯活動参加者の1年間の合計値を全校区(131校区)で割った、1校区当たりの平均参加人数です。				
	生活安全パトロール隊による自主防犯活動の実施回数	217 回	200 回		
	各校区の生活安全パトロール隊による、自主防犯活動実施回数の1年間の合計値を全校区(131校区)で割った、1校区当たりの平均実施回数です。				

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点</p> <p>「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p>

P D C A チェックシート (平成 27 年度実績評価)

		担当局	市民文化スポーツ局		
		担当課	安全・安心都市整備課		
		課長名	松本		
		施策番号			
		II - 1 - (3) - ②			
事業名	防犯灯設置事業				■ 直営 ■ 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
	夜間における犯罪の発生を未然に防止し、公衆の通行の安全を図るため地域と市が協力しながら、防犯灯を設置します。防犯灯の設置にあたっては、LED防犯灯の設置促進を図り、町内会等の地域の防犯灯の設置のため費用の一部を助成し、明るく安心して生活できるまちづくりを推進します。				
コスト	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額
	153,137 千円	千円			課長 0.20 人 係長 0.40 人 職員 0.60 人 (人件費備考)

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	防犯灯について、現灯数が維持され、LED化については計画以上に進捗が図られています。また、犯罪発生件数も減少するなど、成果の状況、活動状況、いずれも順調に進んでいます。	見直し内容 LED化が進むことで維持管理経費(電気代、球替え等)が大幅に減少することから、経済性・効率性の向上に寄与する事業です。引き続き、防犯灯のLED化を促進します。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	市民	夜間における犯罪の発生を未然に防止し、公衆の通行の安全を図るため地域と市が協力しながら、防犯灯を設置します。地域が設置する防犯灯の費用の一部を補助することで防犯灯の設置促進を図り、市民が安全で安心して暮らすことのできる明るいまちづくりを目指します。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	刑法犯認知件数(警察統計のため暦年カウント) 北九州市内の刑法犯認知件数です。平成14年の4万件をピークに、毎年減少しています。今後も毎年の件数減を目指します。 (最終目標と目標年度) 前年比減 平成28年度	37件減 (12,372件)	前年比減		
	市民が感じる治安状況(体感治安) 市民意識調査アンケートで、市民が「とても安全」「比較的安全」と回答する割合の向上を目指します。 (最終目標と目標年度) 前年度比増 平成28年度	77 %	前年度比増		

活動計画	地域が設置する防犯灯については、町内会等の属する連合会及びまちづくり協議会、未加入団体に対し、設置費の一部を補助し、現灯数を維持します。 平成23年度からは、10年間を用途にLED照明への転換を図ります。LED化により維持管理経費が減少するため、町内会等の負担が軽減されます。また、蛍光灯と比べて球切れがないので、夜間の安全性が向上します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	本市設置及び地域設置防犯灯の管理灯数 本市が設置している防犯灯数(約14,600灯)については、効率的な配置のもと現灯数を維持し、また、地域が設置している防犯灯数(約53,400灯)については、補助制度を継続し現灯数を維持します。	67,752 灯	現状維持 (67,752 灯)		
	防犯灯のLED化灯数 毎年度、全灯数の約1割をLED化します。	9,764 灯	8,500 灯		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

P D C A チェックシート (平成 27 年度実績評価)

		担当局	市民文化スポーツ局		
		担当課	安全・安心都市整備課		
		課長名	松本		
事業概要					
事業名	防犯灯維持管理拡充事業				施策番号
					Ⅱ - 1 - (3) - ②
事業概要	防犯灯の維持管理を拡充することで夜間における犯罪の発生防止や、公衆の通行の安全を更に強化します。 主な事業内容としては、 ・市が設置する防犯灯の劣化調査の実施 ・通学路における夜間の安全強化を図る検討 ・地域が設置する防犯灯のLED化の推進 などに重点的に取り組みます。				<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
					()
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	目安の金額
		48,400 千円	千円		10,800 千円
				課長 0.20 人	
				係長 0.40 人	
				職員 0.60 人	(人件費備考)

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 防犯灯の老朽化による事故を防止するため、市設置防犯灯の点検、および、地域設置防犯灯についても建替えや改修等を促進し、安全対策を図る必要があります。また、通学路における夜間の安全・安心対策を強化する必要があります。	見直し内容	平成27年度 新規事業

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) 市民	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 夜間における犯罪の発生を未然に防止し、公衆の通行の安全を図るため地域と市が協力しながら、設置する防犯灯の維持管理を拡充・強化し、安全・安心条例の施行を機に、より市民が安全で安心して暮らすことのできる明るいまちづくりを目指します。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由
	刑法犯認知件数 北九州市内の刑法犯認知件数です。平成14年の4万件をピークに、毎年減少しています。今後も毎年の件数減を目指します。 (最終目標と目標年度) 前年比減 平成28年度	37件減 (12,372件)	前年比減		
	市民が感じる治安状況(体感治安) 市民意識調査アンケートで、市民が「とても安全」「比較的安全」と回答する割合の向上を目指します。 (最終目標と目標年度) 前年度比増 平成28年度	77 %	前年度比増		

活動計画	どうやって目的を達成するか 市が設置する防犯灯(添架灯)について、全灯の現地調査及び腐食調査を実施し、既に劣化・腐食しているものについては、建替えや改修等を行います。また、自治会設置の防犯灯についても、劣化に伴う建替え、取替え等(LED化)を促進します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由
	市設置防犯灯(添架灯)の安全調査	-	5,000 灯		
	市が設置している防犯灯(添架灯、約5,000灯)について、専門的な劣化調査を実施します。				
	防犯灯のLED化灯数	9,764 灯	8,500 灯		
	平成23年度からのLED化計画に基づき、着実にLED化を推進します。				

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

		担当局	市民文化スポーツ局		
		担当課	安全・安心相談センター		
		課長名	眞藤		
事業概要		施策番号			
事業名	暴力追放の推進				II - 1 - (3) - ③
事業概要	社会全体で暴力団を排除する取り組みを推進するため、事業者・市民の暴排意識を高める市民暴力追放総決起大会や暴力追放強調月間による集中的な啓発活動などを実施し、官民一体となって取り組みます。				事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 () (人件費備考)
コスト	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.40 人
	16,052 千円	千円		12,850 千円	係長 0.30 人 職員 0.70 人

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 平成26年度の市政要望では「防犯、暴力追放の推進」が第2位となっています。今後も、県警察と連携しながら、効果的な暴排運動を展開し、事業者や市民の暴力追放意識の高揚及び暴排気運の醸成を図る必要があります。	見直し内容	暴力団からの離脱を希望する組員の社会復帰のため、新たに暴力団離脱支援事業を実施するなど、より積極的な暴力追放の推進を図ります。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) 北九州市	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 事業者や市民が警察・行政とともに一丸となって高い暴排気運の下、暴力追放に取り組める環境を目指します。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方) 暴追対策に対する市民の評価 市民意識調査項目の「北九州市の暴力追放対策が、以前と比べ進んでいると思いますか。」の質問に「進んでいる」「少し進んでいる」と回答する市民の割合。 (最終目標と目標年度)安全・安心を実感できるまちの実現、社会経済活動の健全な発展が暴力団を意識せずに感じられる状態	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	48 %	前年度比増			
	55.8 %	前年度比増			
	企業における暴力団排除条項の規定割合 企業対象アンケート項目の「取引相手との法律関係を規定する契約書等のなかに、暴力団排除条項を規定していますか。」の質問に「規定している」「今後規定する予定」と回答する企業の割合。 (最終目標と目標年度)安全・安心を実感できるまちの実現、社会経済活動の健全な発展が暴力団を意識せずに感じられる状態				

活動計画	どうやって目的を達成するか 暴力追放意識の高揚を図るため、暴追大会や研修会等を開催し、啓発活動の推進を図ります。また、8月を暴力追放啓発強調月間と位置付け、暴力追放広報啓発を集中して実施します。また、新たに暴力団離脱支援事業を実施し、暴力団からの離脱を希望する組員の社会復帰を図ります。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明) 暴追大会や研修会等の実施開催 暴追大会、研修会・出前講演等の開催により、暴力追放啓発活動を推進し、暴力追放意識の高揚を図ります。 北九州市民暴力追放総決起大会の参加者数 市民の暴力追放意識の高揚を目的として、「市民暴排の日」に北九州市民暴力追放総決起大会を開催します。また、各区においても暴力追放大会を開催します。	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	28 回	28 回			
	2,000 人	2,000 人			

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

P D C A チェックシート (平成 27 年度実績評価)

事業概要						担当局	市民文化スポーツ局
						担当課	安全・安心相談センター
事業名						課長名	眞藤
						事業概要	
安全・安心総合相談ダイヤルの運営						事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	
市民からの生活安全に関するあらゆる相談を受けける「安全・安心総合相談ダイヤル」を開設します。							
コスト	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.20 人		
	49,558 千円	千円	人件費	9,300 千円	係長 0.40 人 職員 0.40 人		
						(人件費備考)	

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 安全・安心に関する窓口が分野別に設置されており必ずしも相談しやすいものとはなっていなかった。	見直し内容	平成27年度 新規事業

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を) 北九州市	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 市民からの生活安全に関するあらゆる相談を受けける「安全・安心総合相談ダイヤル」を開設し、市民がより気軽に相談できる体制を作ることで、安全・安心を実現できるまちの実現を目指します。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由
	安全・安心総合相談ダイヤルの認知度	-	アンケート実施		
	市民アンケートで、市民が「知っている」と回答する割合の向上を目指します。	-			
	(最終目標と目標年度) 前年度比増 毎年度				

活動計画	どうやって目的を達成するか	行政経験が豊富なOB職員を安全・安心総合相談員として配置し、生活安全に関するあらゆる相談受け、関係部署と連携し、問題の解決を図ります。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由
	安全・安心総合相談の実施	-	相談の実施		
	総合相談員により、関係部署と連携しながら、問題の解決を図ります。	-			

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

P D C A チェックシート (平成 27 年度実績評価)

		担当局	市民文化スポーツ局		
		担当課	安全・安心都市整備課		
		課長名	松本		
		施策番号			
		Ⅱ - 1 - (3) - ④			
事業名	交通安全推進事業				■ 直営 □ 補助金 □ 全部委託 □ 負担金 □ 一部委託 □ 指定管理 □ その他 ()
	第8次交通安全計画に基づき、重点項目について啓発を実施します。 生涯にわたる交通安全教育及び効果的な広報啓発活動により、市民に広く交通安全思想を普及し、交通事故防止を図ります。				
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費
		5,444 千円	千円		目安の金額 課長 0.20 人 係長 0.30 人 職員 0.60 人 (人件費備考)

【Action】改善				
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	交通事故発生件数、交通事故死者数とも前年比較で減少しており、目標は達成したものの、交通事故発生件数はまだ高い水準にあり、更なる啓発が必要です。	見直し内容	これまで以上に関係機関など連携し、より多くの人へ交通安全教室等への参加を促し、交通安全に取組みます。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	市民	交通事故死者数を減少させることはもちろん、交通事故件数自体の減少に取り組むことによって、市民に交通ルール・マナーの徹底を図り、安全で安心なまちを目指します。				
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由	
	交通事故発生件数(警察統計のため暦年でカウント)	8,949 件	前年比減			
	第8次北九州市交通安全計画(平成23年度～平成27年度)に基づき、各団体・関係機関が連携して交通安全対策に取り組むことにより、交通事故の発生件数の減少を目指します。 (最終目標と目標年度) 8,000件以下 平成27年					
	交通事故死者数(警察統計のため暦年でカウント)	22 人	前年比減			
	第8次北九州市交通安全計画(平成23年度～平成27年度)に基づき、各団体・関係機関が連携して交通安全対策に取り組むことにより、交通事故死者数の減少を目指します。 (最終目標と目標年度) 22人以下 平成27年					

活動計画	どうやって目的を達成するか	平成23年度中に策定した第8次北九州市交通安全計画に基づいて、その重点項目である「自転車の安全確保」「高齢者の安全確保」「飲酒運転の撲滅」に取り組めます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由	
	高齢者に対する交通安全教室参加者数	28,697 人	31,000 人			
	高齢者の交通事故を防止するため、老人クラブ等と連携し、高齢者が参加するイベント等で巡回交通安全教室を実施します。					
	小学校等での交通安全教室参加者数	40,761 人	27,000 人			
	学校や地域と連携し、歩行者としての知識や自転車のルールなどを習得するための交通安全教室を実施します。					

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

P D C A チェックシート (平成 27 年度実績評価)

		担当局	市民文化スポーツ局		
		担当課	安全・安心都市整備課		
		課長名	松本		
		施策番号			
		Ⅱ - 1 - (3) - ④			
事業名	交通安全センター管理運営				
事業概要	市立交通安全センターを管理するとともに、交通公園内外における交通ルール・マナーの徹底を図り、自転車の安全運転を促進します。 指定管理期間 平成26年度～平成30年度 指定管理者 タウンモバイルネットワーク北九州				
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費
		27,573 千円	千円		目安の金額
					課長 0.10 人
					係長 0.10 人
					職員 0.20 人
					(人件費備考)

【Action】改善		
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 交通事故の発生件数、事故死者数とも前年比較で減少しているものの、全国的にも自転車のルールの遵守、マナーの向上が求められています。	見直し内容 これまで以上に関係機関、団体と連携を強化し交通安全運動に取り組みます。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	対象(誰を、何を) 市民	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 交通事故発生件数を減少させることはもちろん、自転車が関与する交通事故の発生件数の減少に取り組むことにより、市民に自転車のルール・マナーの徹底を図り、安全で安心なまちを目指します。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック		
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由	
	交通事故の発生件数(警察統計のため暦年でカウント)	8,949 件	前年比減			
	第8次北九州市交通安全計画(平成23年度～平成27年度)に基づき、各団体・関係機関が連携して交通安全対策に取り組むことにより、交通事故の発生件数の減少を目指します。 (最終目標と目標年度) 8,000件以下 平成27年					
	自転車関連事故の発生件数(警察統計のため暦年でカウント)	1,069 件	前年比減			
	第8次北九州市交通安全計画(平成23年度～平成27年度)に基づき、各団体・関係機関が連携して交通安全対策に取り組むことにより、自転車が関与する事故の発生件数の減少を目指します。 (最終目標と目標年度) 前年比減 平成27年					

活動計画	どうやって目的を達成するか 学校へ積極的に働きかけを行い、交通安全教室の開催数の増加に取り組んでいきます。 また、子どもたちが「自転車運転免許証」を持ちたいという気持ちになるように制度の充実を図っていきます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	交通公園入場者数	208,142 人	187,715 人		
	交通公園の入場者を増加させることで、自転車をはじめとした交通ルールの周知、遵守やマナーの改善を図ります。				
	安全教室の開催数	601 回	508 回		
	警察等と連携して、交通公園や小学校等での交通安全教室を開催します。				

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

P D C A チェックシート (平成 27 年度実績評価)

		担当局	市民文化スポーツ局				
		担当課	安全・安心都市整備課				
		課長名	松本				
		施策番号					
		Ⅱ - 1 - (3) - ④					
事業名	自転車安全運転向上事業						
事業概要	「北九州市安全・安心条例」の制定を契機として、自転車利用者の安全運転に関する意識の更なる高揚を図る事業を実施し、自転車の安全利用を推進します。 ・交通ルールを守ることや自転車の保険加入などの不足の事態に備えることなどを啓発する参加・体験型イベントの開催 ・自転車ルール検定の実施 ・自転車ルールマナーを啓発するDVDの作成・活用 など				事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 () (人件費備考)		
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.10 人
		2,000 千円	千円			5,400 千円	係長 0.20 人 職員 0.30 人

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	交通事故の発生件数は毎年減少傾向となっているが、全国的にも自転車のルール・マナーが問題となっている ・自転車事故を起こした子どもの保護者が高額賠償金を請求される事例が目立つなど対策が必要となっている。	見直し内容 関係機関等と連携し、自転車ルール検定などを通じて、より多くの自転車利用者へルール・マナーの周知を図る。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	市民	市民に自転車のルール・マナーの徹底を図り、自転車に関連する交通事故の発生件数を減少させることで、安全で安心なまちを目指します。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由
	自転車関連事故の発生件数(警察統計のため暦年でカウント)	1069 件	前年比減		
	第8次北九州市交通安全計画(平成23年度～平成27年度)に基づき、各団体・関係機関が連携して交通安全対策に取り組むことにより、自転車に関連する事故の発生件数の減少を目指します。				
	(最終目標と目標年度) 前年比減 平成27年				

活動計画	どうやって目的を達成するか	自転車利用のルール周知とマナー向上啓発のため、中学生を対象とした自転車交通ルール検定「チャレンジ！チャリマスター」を実施します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	自転車交通ルール検定参加校数	—	62 校		
	警察や教育委員会と連携して、自転車交通ルールをテスト形式で学習する「自転車ルール検定」を全中学校で実施				
	安全教室の開催数	—	508 回		
警察等と連携して、交通公園や小学校等での交通安全教室を開催します。					

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

P D C A チェックシート (平成 27 年度実績評価)

		担当局	市民文化スポーツ局		
		担当課	安全・安心推進課		
		課長名	守口		
		施策番号			
		Ⅱ - 1 - (3) - ⑤			
事業名	地域防犯対策事業				
事業概要	北九州市安全・安心条例では、「市民等は安全・安心に関する意識を自ら高め、行動すること」「市及び市民等は相互に連携を深め、防犯活動を協力して推進すること」と定められています。この事業では、市民の防犯意識を高め、地域住民の自主防犯活動を促進し、安全・安心を実感できるまちの実現を図ります。				
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費
		33,138 千円	千円		目安の金額
				課長 0.10 人	(人件費備考)
				係長 0.35 人	
				職員 1.50 人	

【Action】改善		
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 市民が互いに支え合い思いやる良好な地域社会の中で防犯の取組みが次の世代に引き継がれるよう新たな担い手を育てることが必要です。	見直し内容 これまでの地域防犯対策事業に加え、市民・警察・市が連携協力を促進することにより、防犯意識のさらなる向上と自主防犯活動の一層の促進を図り、安全で安心なまちづくりを目指します。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	地域住民	地域住民の防犯意識を高め、地域における自主防犯活動の継続と活動の輪を広げます。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由
	街頭犯罪件数(警察統計のため暦年でカウント)	5,212 (233件減) 件	前年比減		
	北九州市内の街頭犯罪件数です。平成14年の約2万8千件をピークに、毎年減少しています。今後も毎年の件数減を目指します。 (最終目標と目標年度) 前年比減 平成28年				
	市民が感じる治安状況(体感治安)	77 %	前年度比増		
	市民意見調査アンケートで、市民が「とても安全」「比較的安全」と回答する割合の向上を目指します。 (最終目標と目標年度) 前年度比増 平成28年度				

活動計画	どうやって目的を達成するか 安全・安心を実感できるまちを実現するためには、市民による自主的な防犯活動の取組みが重要です。地域の自主防犯組織「生活安全パトロール隊」による防犯パトロールや登下校時の子どもの見守りなどの活動を促進します。	活動の状況 活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック			
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	生活安全パトロール隊による年間パトロール平均参加人数	1,436 人	1,500 人		
	各校区の生活安全パトロール隊による、自主防犯活動参加者の1年間の合計値を全校区(131校区)で割った、1校区当たりの平均参加人数です。				
	生活安全パトロール隊による自主防犯活動の実施回数	217 回	200 回		
	各校区の生活安全パトロール隊による、自主防犯活動実施回数の1年間の合計値を全校区(131校区)で割った、1校区当たりの平均実施回数です。				

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p>

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

		担当局	市民文化スポーツ局		
		担当課	地域振興課		
		課長名	杉本		
事業概要		施策番号			
事業名	戦時資料展示コーナー管理運営事業				II - 3 - (4) - ①
事業概要	本事業は、市民からご寄贈いただいた戦時下の資料を保管・展示することにより、北九州市立埋蔵文化財センター内に開設した戦時資料展示コーナーにおいて、戦争がもたらした惨禍と平和の尊さを多くの市民に理解していただくものです。				事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	目安の金額
		6,327 千円	千円		1,220 千円
				人件費	課長 0.03 人 係長 0.05 人 職員 0.05 人
				(人件費備考)	

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 市内小中学校をはじめとして、区役所や生涯学習センターへ案内チラシの配布を行うことにより、概ね目標は達成しているが、さらに広く周知し、多くの方に来館していただくことが課題です。	見直し内容	戦時資料展示コーナーを広く市民にPRするために、市内の文化施設等、案内チラシの配布先の拡充に取り組み、広報活動の充実を図ります。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) 多くの市民	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 市民からご寄贈いただいた戦時下の資料を保管・展示することにより、風化しつつある戦争がもたらした惨禍と平和の尊さを理解していただき、二度と同じ過ちを繰り返さないよう次の世代に伝えていくことができる状態を目指します。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	戦時資料展示コーナー見学者数 平成25年度までの最終目標に設定していた4,000人が達成できていないため、引き続き平成28年度までの最終目標に設定しました。 (最終目標と目標年度) 4,000人 平成28年度	3,602 人	4,000 人		

活動計画	どうやって目的を達成するか 引き続き、夏休みの機会を利用して、戦争の悲惨さや平和の尊さを学んでもらえるよう、これまでの市内の全小学6年生児童、中学校に加え、新たに市内の文化施設等に案内チラシ配布の協力を依頼する等、広報に努めます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	市民への広報活動件数 見学者の増加に向けて、小中学校や区役所、市民センター、市内の文化施設等に案内チラシを配布するなど、様々な機会を捉えて広報活動を実施します。	348 箇所・校	373 箇所・校		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p>

P D C A チェックシート (平成 27 年度実績評価)

		担当局	市民文化スポーツ局				
		担当課	文化企画課				
		課長名	佐々木				
事業名	文化財保存補助	施策番号					
		Ⅲ - 2 - (1) - ②					
事業概要	伝統文化の継承者や保存団体の活動を育成・支援し、市内の伝統文化を発掘し、次世代に継承します。				<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()		
					(人件費備考) ()		
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.20 人
		1,198 千円	千円			11,050 千円	係長 0.50 人 職員 0.50 人

【Action】改善		
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 指定無形民俗文化財の保存団体の自主的な申請に対して補助を行うもので、急激に申請件数が増加するものではありませんが、引き続き、保存団体に対して周知を行っていきます。	見直し内容 引き続き、保存団体に対して周知を行うとともに、限られた財源の中で、時機に応じて適切に協議をしながら事業を進めていきます。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	
	伝統文化の継承者や保存団体の活動	伝統文化の継承者や保存団体の活動を育成・支援し、市内の伝統文化を発掘し、次世代に継承します。		代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由
	指定無形民俗文化財保存支援団体数	16 団体	16 団体		
	指定無形民俗文化財の保存団体が行う保存・継承活動を支援します。 (最終目標と目標年度) 平成27年度: 16団体				

活動計画	どうやって目的を達成するか 無形民俗文化財は、地域住民の熱意と努力により大切に守られてきたものであり、市の大切な「たから」として保存・継承していきます。市の支援は有効な手段であり、引き続き補助を継続していきます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	指定無形民俗文化財の保護	保存団体と時機に応じて適切に協議を実施。	保存団体と時機に応じて適切に協議します。		
	指定無形民俗文化財を保護するため、保存団体と時機に応じて適切に協議します。				

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点

P D C A チェックシート (平成 27 年度実績評価)

		担当局	市民文化スポーツ局		
		担当課	文化企画課		
		課長名	稗田		
事業名	事業概要				施策番号
					Ⅲ - 2 - (2) - ①
事業概要	【劇場・自主事業】 エンターテインメントから芸術性の高い作品まで舞台芸術全般を網羅し、幅広い年代層をターゲットに公演を行います。また、北九州芸術劇場オリジナルの演劇作品等を制作し、公演を実施します。 【響ホール・自主事業】 室内楽専用ホールの特性を生かした質の高いコンサートや響ホールを拠点として地元演奏家を積極的に育てるコンサートを行います。また、響ホールからの発信を意識した、オリジナリティのある演奏会を実施します。				事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
	コスト	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	
事業費	159,531 千円	千円	千円	人件費	目金の金額 3,550 千円

【Action】改善				
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	芸術劇場及び響ホールの特性や地域性を生かし、多彩で良質な舞台芸術やクラシック音楽を今後も継続して提供する必要があります。また本市独自のオリジナル公演については、本市の文化・芸術のけん引力となるため、質の向上や、プログラムの充実にも取り組む必要があります。	見直し内容	芸術劇場及び響ホールの特性を活かしながら、芸術性が高く幅広いラインナップの事業を推進します。また、実施にあたっては経済性や効率性も考慮に入れながら、効果的な事業となるよう工夫します。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	芸術劇場及び響ホールの自主事業	【芸術劇場・自主事業】ラインナップの拡大を図ることで観客層を拡大し、都市の賑わいとシティブランドを創出し、市民生活に潤いと誇りを提供します。また、質の高い独自の舞台作品を全国にアピールするとともに舞台芸術創造の発信拠点となることを目指します。 【響ホール・自主事業】国内外の一流の演奏家や国内外で活躍する地元の演奏家等の起用を通じて本物の音楽に触れる機会を提供します。また、オリジナリティある企画公演を提供し、響ホールから高レベルの音楽文化を発信することを目指します。	27年度実績	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標		
	北九州芸術劇場・自主事業入場率	88 %	80 %		
	北九州芸術劇場は、良質な舞台芸術の鑑賞機会の拡大や、オリジナルの演劇作品等の制作、公演を行っています。自主事業入場率の目標値を設定します。 (最終目標と目標年度)80% 平成27年度				
響ホール・自主事業入場率	82 %	65 %			
音楽専用ホールとしての響ホールの特性を生かした質の高い音楽鑑賞の機会の提供やオリジナリティのある企画を実施しています。自主事業入場率の目標値を設定します。 (最終目標と目標年度)65% 平成27年度					

活動計画	どうやって目的を達成するか	【劇場・自主事業】事業予算の効果的な執行を図りながら、良質で幅広いラインナップの舞台芸術を提供します。また、北九州芸術劇場のプロデュース作品をはじめ、国内で活躍するアーティスト・カンパニーや国内の拠点劇場との共同制作作品など、高いレベルでの作品づくりに取り組み、全国に情報発信を行います。 【響ホール・自主事業】新規性と独創性に富んだオリジナリティのある公演の提供、市民が優れた本物の音楽に触れる機会の提供等を行い、ホール自体の価値を高め、響ホールから高レベルの音楽文化を発信します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	北九州芸術劇場・自主事業の実施	良質な舞台の提供及びオリジナルの演劇作品を制作	良質な舞台の提供及びオリジナルの演劇作品の制作		
	北九州芸術劇場で良質な舞台の提供を行います。また、オリジナルの演劇作品等を制作し、公演します。				
	響ホール・自主事業の実施	良質な音楽鑑賞の機会及びオリジナリティのある企画の公演を提供	良質な音楽鑑賞の機会及びオリジナリティのある企画の公演の提供		
	音楽専用ホールとしての響ホールの特性を生かした良質な音楽の鑑賞機会を提供します。また、オリジナリティのある企画の公演を行います。				

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点

P D C A チェックシート (平成 27 年度実績評価)

		担当局	市民文化スポーツ局	
		担当課	文化企画課	
		課長名	稗田	
		施策番号		
		Ⅲ - 2 - (2) - ①		
事業名	北九州国際音楽祭			
事業概要	地域の音楽文化の向上を図ることを目的に、クラシックコンサートを中心とした音楽祭に助成を行うものです。本音楽祭は、市制25周年を記念して始まり、27年度で28回を数え、本市の秋を彩る催し物として定着しています。			
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)
		40,000 千円	千円	
		目安の金額	課長 0.05 人	(人件費備考)
		1,625 千円	係長 0.06 人	
			職員 0.06 人	
				事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()

【Action】改善				
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	来場者満足度及び入場者数共に目標達成できていますが、今後も質の高い公演の実施と経済性や効率性を意識した取り組みの継続が課題です。	見直し内容	企画の内容や実施方法をより充実させ、満足度のアップを目指します。また、経済性や効率性を意識した取り組みを今後も進めます。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	地域の音楽文化	①北九州プロデュース企画による創造と発信、②海外オーケストラを聴ける機会の提供③質の高いクラシック音楽の鑑賞機会拡大、④未来を担う子どもたちに音楽を、⑤広く市民が音楽に親しむ機会を事業の柱として掲げ、国内トップクラスの音楽祭の実現を目指し地域の音楽文化の向上を図ります。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	北九州国際音楽祭の満足度の割合	99 %	85 %		
	来場者のコンサートの満足度の割合を指標とし、これまでの実績を参考に、85%を目標とします。 (最終目標と目標年度)85% 平成27年度				

活動計画	どうやって目的を達成するか	国内外で活躍中の旬のアーティストの招聘、北九州オリジナル企画の充実、若年者層を対象とした鑑賞事業などバラエティに富んだプログラムで質の高い国際レベルのコンサートを実施します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	北九州国際音楽祭の入場者数	13,072 人	11,500 人		
	本事業のプログラム①有料プログラム、②教育プログラム、③特別プログラム、④協賛事業の入場者数を指標とし、これまでの実績を参考に指標を設定します。				

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

		担当局	市民文化スポーツ局		
		担当課	文化企画課		
		課長名	佐々木		
事業概要		施策番号			
事業名	芸術文化育成負担金・補助金				Ⅲ - 2 - (2) - ②
事業概要	本市の文化水準の向上及び地域文化の振興を推進することを目的として、積極的に文化活動を展開している文化団体等の事業に対して、助成を行う事業です。				事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 () (人件費備考)
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	目安の金額
		37,450 千円	千円		5,825 千円
				人件費	課長 0.05 人 係長 0.30 人 職員 0.30 人

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 本市の文化芸術の特徴である活発な市民レベルでの文化芸術活動が、今後も継続・発展していくためのより効果的な行政の支援方法。	見直し内容	継続して、事業規模の再検討、補助金のみには頼らない協賛拡大など運営体制の指導を行います。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	様々な分野や年代の人が	広く文化芸術に親しむことの出来る環境づくりを下支えます。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方) 各種文化事業数	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	積極的に文化活動を展開している文化団体等へ助成を行い、文化祭や定期演奏会等のコンサートなどを実施し、本市の文化水準の向上や個性ある地域文化の振興、市民の芸術文化活動促進を図ります。	16 事業	15 事業		
	(最終目標と目標年度) 15事業 平成27年度				

活動計画	どうやって目的を達成するか 本市の文化水準の向上や個性ある地域文化の振興、市民の文化芸術活動促進のため積極的に文化活動を展開している文化団体等へ助成を行います。あわせて、より効果的な文化芸術活動の支援のあり方についても検討を行います。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明) 芸術文化育成負担金・補助金交付団体数	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	市民の文化芸術活動の促進を図るための補助金を交付する団体数を指標とします。	16 団体	15 団体		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

		担当局	市民文化スポーツ局				
		担当課	文化企画課				
		課長名	古林				
事業概要		施策番号					
事業名	北九州市文化振興基金				Ⅲ - 2 - (2) - ②		
事業概要	北九州市の文化水準の向上と地域文化の振興に資することを目的として設置された北九州市文化振興基金運用果実により、市民の行う芸術・文化活動等に対し助成を行います。				事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()		
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.05 人	(人件費備考)
		11,366 千円	千円		3,825 千円	係長 0.10 人 職員 0.30 人	

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 市民の自主的な文化・芸術活動を支援する事業であるため、政策的に助成件数を増加させるものではありませんが、一定の応募が継続するよう取り組みを継続します。	見直し内容	今後も一定の応募が継続し、地域の文化水準の向上と振興に資することが出来るよう周知を行うとともに、効果的な助成となるよう努めます。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を) 市民の行う文化・芸術活動等	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 本事業は文化振興への寄附金等の運用益を原資とし、市民の自主的な芸術・文化活動に対する助成や、資力のない児童に対する奨学金の交付などを実施し、本市の芸術・文化活動の更なる活性化を目指します。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方) 北九州市文化振興基金奨励事業の補助件数	上段:25年度実績 下段:26年度実績 22 件	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	地域文化の裾野を支える市民の自主的な芸術・文化活動に対し、事業補助金を交付します。 (最終目標と目標年度) 平成27年度 25件		25 件		

活動計画	どうやって目的を達成するか 半年に一度(上半期、下半期の2回)、北九州市文化振興基金奨励事業の募集を行います。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明) 北九州市文化振興基金奨励事業の募集実施回数	上段:25年度実績 下段:26年度実績 2 回	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	半年に一度(上半期、下半期の2回)、北九州市文化振興基金奨励事業の募集を行います。		2 回		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点

P D C A チェックシート (平成 27 年度実績評価)

		担当局	市民文化スポーツ局		
		担当課	美術館普及課		
		課長名	榎田		
事業名	美術館企画展充実事業				施策番号
					Ⅲ - 2 - (2) - ③
事業概要	美術館本館及び分館において、多彩で魅力ある企画展を開催し、本市の美術・文化の振興を積極的に推進します。				<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
					(人件費備考) (人件費備考)
コスト	27年度当初予算額	27年度執行額	目金の金額	課長	0.25 人
	83,464 千円	千円	36,750 千円	係長	0.65 人
				職員	3.65 人

【Action】改善		
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 来館者は、市制50周年事業として大型企画展等を開催した結果、目標の30万人を超えましたが、来年度からは、本館の大規模改修が予定されているため、主に、分館での開催となります。当面の間、分館において引き続き幅広い作品の展覧会を開催し、多くの市民が美術作品に触れる機会を創出します。	見直し内容 厳しい財政事情を踏まえ、開催経費やその他の経費を精査した上で、気軽に楽しめる美術作品や世界的な美術作品など幅広い作品の展覧会の開催やテーマを明確にしたコレクション展を開催し、少しでも多くの市民の来館を目指します。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) 市民、芸術文化活動をしている人など	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 市民が日常生活の中で多様な芸術・文化に接し、豊かな感性の育成と教育文化の向上を目指し質の高い作品などに接する機会を提供していきます。また、芸術・文化活動を行っている人たちに発表や交流の機会を提供します。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方) 美術館の入館者数 入館者数は、魅力ある展覧会を開催するうえで最もわかりやすい指標です。 (最終目標と目標年度) 年間150,000人 平成27年度	上段:25年度実績 下段:26年度実績 363,190 人	27年度目標 150,000 人	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	コレクション展の観覧者数 コレクション展は、学芸員が、美術館の所蔵作品を利用して市民や子どもたちのために自主企画する展覧会で、美術館単独での成果指標になります。 (最終目標と目標年度) 5,000人 平成27年度	48,010 人	5,000 人		

活動計画	どうやって目的を達成するか 収蔵作品及び作家についての研究を含め、テーマ性のあるコレクション展や気軽に楽しめる美術作品や世界的な美術作品など幅広い作品を展示した企画展を実施します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明) 展覧会の開催回数 幅広い作品の展覧会を開催し、多くの市民の来館を目指します。	上段:25年度実績 下段:26年度実績 131 回	27年度目標 70 回	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	コレクション展のテーマ件数 美術館所蔵の作品を有効に活用して、テーマ性のある魅力的な展覧会を開催します。	6 回	2 回		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

P D C A チェックシート (平成 27 年度実績評価)

		担当局	市民文化スポーツ局	
		担当課	自然史・歴史博物館普及課	
		課長名	永元	
		施策番号		
		Ⅲ - 2 - (2) - ③		
事業名	博物館企画展・特別展充実事業			
事業概要	企画展・特別展は、特定のテーマを設けて自然史や歴史に関する展示を行うことによって、市民が楽しく学べる場を提供し、本市の学術文化の発展を図るものです。 (平成27年度特別展) ・春の特別展「地球からの贈り物～石の美と魅力～」(3月21日～5月10日)、・夏の特別展「スペイン 奇跡の恐竜たち」(7月11日～9月23日)、・秋の特別展「医は仁術～日本の医の歩み～」(10月10日～H28年1月11日)、・春の特別展「ふしぎの教室～博物学の時代～」(3月19日～5月15日)など			
コスト	27年度当初予算額	27年度執行額	目金の金額	課長 1.40 人
	54,409 千円	千円	74,600 千円	係長 1.80 人 職員 5.40 人
事業費	(事業費備考) ・博物館企画展・特別展開催事業 16,909千円 ・500万人達成関連事業 37,500千円		人件費	(人件費備考)

【Action】改善				
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	H25年3月23日のリニューアルオープンや夏の特別展など誘客力の高い企画や展示演出により入館者数は当初計画を大幅に上回る実績を達成することができました。しかし、今後はリニューアル効果の逡減や予算削減などによる魅力ある大型企画展の開催縮小が予想される中、入館者数の実績維持は困難な状況となっています。	見直し内容	市民の興味関心を呼ぶ、魅力あふれる特別展(年4回程度)を開催し、市民の自然や歴史に対する関心を高めるなかで一層の入館者数の確保を図ります。また企画展・特別展の開催にあたっては実行委員会形式による開催や補助金の受入などによる外部資金の導入・活用を積極的に行うことにより事業費確保などの課題克服に取り組みます。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	市民	市民の興味関心を呼ぶ、魅力あふれる特別展(年4回程度)を開催し、市民の自然や歴史に対する関心を一層高めます。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	博物館総入館者数	622,701 人	430,000 人		
	常設展・特別展に加え、普及講座等の開催により、より多くの方に博物館に來館していただくことで、本市の文化発展に資することとします。 (最終目標と目標年度) 430,000人 平成28年度				

活動計画	どうやって目的を達成するか	市民や子どもたちの自然や歴史に対する関心を育み応える場として、①年4回にわたり四季折々に特別展を開催、②ポケットミュージアムの展示更新、③博物館の様々な専門分野の学芸員による各種講演会や室内講座、野外観察会の開催、等に取組みます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	企画展・特別展入館者数	223,402 人	150,000 人		
	市民の興味関心を呼ぶ、魅力あふれる特別展(年4回程度)を開催し、市民の自然や歴史に対する関心を一層高めます。				
	教育普及講座の実施回数	65 回	60 回		
学芸員の専門知識や研究成果を活用し、市民の自然史及び歴史に対する関心を育むことを目的に講座を開催します。					

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果)の分析 ※民間活力導入の視点

P D C A チェックシート (平成 27 年度実績評価)

		担当局	市民文化スポーツ局		
		担当課	文化企画課		
		課長名	稗田		
		施策番号			
		Ⅲ - 2 - (2) - ④			
事業名	芸術文化体験事業				
事業概要	通常の演奏会や公演の鑑賞ではなく、様々な形で子どもたちが身近に芸術文化を体験できるように、地元文化団体等が企画した芸術体験プログラム(ワークショップ等)を夏休み期間中に集中的に実施し、親子で芸術文化を楽しむ機会の拡充に努めます。 また、子どもたちや若者が文化・芸術に接する機会をさらに拡大するため、学校・地域等における教育普及活動(=アウトリーチ)やホール等の文化施設における文化・芸術の体験活動等を充実させます。				
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費
		14,056 千円	千円		目安の金額
					課長 0.15 人
					係長 0.40 人
					職員 0.40 人
					(人件費備考)
					<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	低コストで高い効果が得られるよう工夫を継続していく必要があると考えています。	見直し内容
			事業の質を落とすことなく、低コストで事業が実施できるよう外部委託等を継続して検討していきます。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況		
	市内の子どもたち(小中学生)	文化体験を通して、子どもたちの豊かな情操を養うとともに、芸術文化に対する関心を高め、未来の文化の担い手として育成します。	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック		
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	子ども文化ふれあいフェスタ参加者の満足度	94 %			
	子ども文化ふれあいフェスタの参加者の満足度を指標とします。 (最終目標と目標年度)90% 平成27年度		90 %		

活動計画	どうやって目的を達成するか	文化団体等が企画したワークショップを実施し、芸術文化に対する関心を高めます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	子ども文化ふれあいフェスタ体験型事業への参加率	100 %			
	子ども文化ふれあいフェスタで開催される体験型イベントへの参加率とします。(参加率=参加者数÷募集定員)		80 %		
	アウトリーチ事業等の新規実施	-	5 事業		
	子どもたちや若者へ文化・芸術に触れる機会を提供する教育普及事業(アウトリーチ事業)の新規実施数を活動指標とします。				

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

P D C A チェックシート (平成 27 年度実績評価)

		担当局	市民文化スポーツ局		
		担当課	文化企画課		
		課長名	稗田		
		施策番号			
		Ⅲ - 2 - (2) - ④			
事業名	現代美術センター・CCA北九州支援事業				
事業概要	CCA北九州は、現代美術の世界的な拠点のひとつとなることを目指して活動している研究・学習機関です。国内外から集まる現代美術の若手アーティスト等の指導育成、招聘アーティストによる新作発表のための展覧会、国内外の第一線で活躍する学芸員による「キュレーターミーティング」を開催するとともに、CCA北九州のネットワークを活かして、その活動を広く市民に浸透させるための市民美術大学美術講座、子ども向けワークショップなどの事業を行っています。				
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費
		54,375 千円			8,150 千円
		課長	0.10 人		
		係長	0.70 人		
		職員	0.00 人		
		(人件費備考)			

【Action】改善				
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	リサーチプログラムにおいて、海外からの受講生の中には、経済的要因で来日困難になったケースがあり、目標をやや下回っています。展覧会、一般公開事業への参加者数はほぼ目標どおりとなりました。今後は限られた予算の中で、受講者の確保、CCA事業の市民へのいっそうの浸透と、より多くの市民参加に努めていきます。	見直し内容	リサーチプログラムにおいては、若手アーティストの中から一定レベルの受講生の確保を図りつつ、現在の募集人数を減らして選考し、展覧会や一般参加事業では充実した内容のプログラムを維持しながら、開催方法・諸経費削減等の見直しをする努力を行います。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	若手アーティスト等 まち、市民の発信力・文化力	リサーチプログラムでは、世界のアートシーンで活躍しう人材育成を目指し、CCA北九州の評価と認知度を高めます。また、市民を対象に本市の芸術文化の担い手として育成し、発信力の高い芸術・文化の振興を図ります。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由
	リサーチプログラムの受講者数	5 人	6 人		
	国内外の若手アーティスト等が本市に滞在しながら自身の制作活動を進めるプログラムであり、世界に通用する人材育成を目指しています。今後はさらにプログラムを充実させていきます。 (最終目標と目標年度) 6人程度 平成27年度				
CCA北九州事業参加者人数	1,920 人	2,200 人			
現代美術展覧会の実施、一般公開事業(市民美術大学、サウンドワークショップ等)の魅力ある、質の高い事業が維持できるよう努めます。 (最終目標と目標年度) 2,200人 平成27年度					

活動計画	どうやって目的を達成するか	リサーチプログラムの充実を図り、北九州から世界に通用するアーティスト等を育成していきます。また、世界の第一線で活躍するアーティストによる現代美術展覧会の実施や多様な現代美術関連事業を展開し、さらに地域との連携を深めることで、活動のいっそうの浸透と芸術文化の担い手の育成を図ります。これらのプログラムの多くは市からの補助金で実施されています。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	リサーチプログラム受講生の活動及び発表回数	2 回	2 回		
	世界の第一線で活躍するアーティスト等を講師として招聘し、受講生はレクチャーを受けていますが、その成果を発表する場(展覧会等)を一層充実させていきます。				
CCA北九州事業実施回数	19 回	19 回			
CCA北九州の持つ人的ネットワークを活かして引き続き質の高い各種講座等を開催していきます。					

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p>

P D C A チェックシート (平成 27 年度実績評価)

		担当局	市民文化スポーツ局				
		担当課	文学館				
		課長名	米満				
事業名	子どもノンフィクション文学賞				施策番号		
					Ⅲ - 2 - (2) - ④		
事業概要	「ノンフィクション」というジャンルの作文を書くことで、子どもたちが人間や社会への関心をもつ契機となり、思考能力や人間としての成長を促すことを目的に、平成21年度に全国の小中学生を対象に創設した文学賞です。				<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()		
					事業手法	(人件費備考)	
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.20 人
		12,043 千円	千円			9,300 千円	係長 0.40 人 職員 0.40 人

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	平成21年度創設で、まだ歴史の浅い文学賞なので、応募数は変動的で応募地域も各年度でばらつきがあります。今後も引き続き、市内・外に向けて、当文学賞の認知度を高めるための積極的なPR活動が必要と考えます。	見直し内容 本市主催の文学賞なので、市内の子ども達の育成にも目を向け、市内からの応募割合を指標として、引き続き積極的にPRして、認知度を高めていきます。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック		
	未来を担う子どもたち	ノンフィクション作品を書くという体験を通じて、人間・社会への関心や思考能力を高めながら成長していくことを契機とします。また、将来本市より芥川賞、直木賞を受賞するような未来の作家を数多く輩出することを目指します。				
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由	
	北九州市子どもノンフィクション文学賞への応募総数	-	1,000 件			
	子どもたちが自身の体験を通して、ノンフィクション分野の文学にふれる機会となる「北九州市子どもノンフィクション文学賞」への応募総数を指標とします。 (最終目標と目標年度) 1000件 毎年度					
	北九州市子どもノンフィクション文学賞への県外からの応募割合	-	30 % 以上			
	北九州市子どもノンフィクション文学賞の知名度の上昇を図り、県外からの応募総数の割合を指標とします。 (最終目標と目標年度) 県外からの応募割合 30%以上 毎年度					

活動計画	どうやって目的を達成するか	「北九州市子どもノンフィクション文学賞」への積極的な応募を促すため、前年の実績分析や市内の国語担当教員の意見を聴取・反映しながら実施します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由	
	効果的な広報を行って多数の応募を得ます。	-	効果的な全国・北九州地域での広報			
	費用対効果の面を考慮して効果的な広報媒体を選択し、全国及び市内向けの効果的な広報を行います。					

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果)の分析 ※民間活力導入の視点

P D C A チェックシート (平成 27 年度実績評価)

		担当局	市民文化スポーツ局	
		担当課	文学館	
		課長名	米満	
事業名	林芙美子文学賞事業			施策番号
				Ⅲ - 2 - (2) - ④
事業概要	「放浪記」、「浮雲」などの作品で知られ、特に短編の名手として評価の高い林芙美子の名を冠する文学賞です。多くの文学者、作家を輩出した北九州市の豊かな文化的土壌を全国に発信するとともに、北九州市文化振興計画の重要な柱である「人材育成」に寄与することを目的とします。			■ 直営 □ 補助金 □ 全部委託 □ 負担金 □ 一部委託 □ 指定管理 □ その他 ()
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)
		15,982 千円	千円	人件費
		目安の金額		課長 0.05 人
		5,825 千円		係長 0.30 人
				職員 0.30 人
				(人件費備考)

【Action】改善

課題	H25年度の評価結果を受けての課題	平成25年度まで実施した「北九州市自分史文学賞」を継承・発展させ人材育成と北九州市の文学的土壌を全国に発信するために創設しました。文学を志す人により広く効果的にこの賞の情報を届けていく必要があります。	見直し内容	平成26年度の実績を分析し、必要に応じて見直します。
----	-------------------	--	-------	----------------------------

【Plan】計画

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	【Do】実施 → 【Check】評価
	作家を目指す人	「林芙美子文学賞」を実施し、本市の文学的土壌を全国に発信するとともに本市の文化芸術の人材育成を図ります。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	「林芙美子文学賞」作品応募数	-	1,000 件		
	広く作品を募り、受賞作を著名な全国誌に掲載することで、新たな文学の才能を世に送り出します。受賞が文壇への足がかりとなるような文学賞を目指すことから、全国からの応募数を指標とします。 (最終目標と目標年度) 1,000件 毎年度				

【Check】評価(分析)

活動計画	どうやって目的を達成するか	前年の実績をしっかりと分析し、改めるべきところ、強めるべきところなどを見極めながら「林芙美子文学賞」の作品募集を継続します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	話題性を喚起できるような広報を行い全国の幅広い層からの応募を募ります。	-	効果的な全国・北九州地域での広報		
	費用対効果の面から広報媒体を厳選しつつも効果的な全国広報、北九州地域での広報を行います。				

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点	
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	

P D C A チェックシート (平成 27 年度実績評価)

		担当局	市民文化スポーツ局				
		担当課	文化企画課				
		課長名	稗田				
		施策番号					
		Ⅲ - 2 - (2) - ④					
事業名	「合唱の街づくり」推進事業						
事業概要	子どもたちや若者を中心としたより多くの市民が合唱に親しみ、市民の歌声が響く「合唱の街づくり」を進めるため、合唱を体験するワークショップモデル事業等を行うとともに、合唱分野の関係者から意見を聴くなどして、幅広い層に合唱が普及するための手法や事業のあり方を検討する。				事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 () (人件費備考)		
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.05 人
		2,000 千円	千円			3,200 千円	係長 0.15 人 職員 0.15 人

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	本市の合唱関連事業は、民間のすそ野も広く充実した取り組みが行われているが、より多くの市民が合唱に親しむ「合唱の街づくり」を更に押し進める必要があるため、本事業を始めるもの。	見直し内容 平成27年度 新規事業

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	子どもたちや若者をはじめとする市民	より多くの市民が合唱に親しみ、合唱を親しむ「合唱の街」が実現すること			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	「合唱の街づくり」の進展と市民への浸透	—	「合唱の街づくり」の進展と市民への浸透		
	より多くの市民が合唱に親しみ、合唱を楽しむ機会に触れるような方向性を示すことができる。を成果指標とします。	—			
	(最終目標と目標年度)※H27の検討を踏まえ、改めて設定したい				

活動計画	どうやって目的を達成するか	合唱関係者の意見やワークショップモデル事業の成果等を基に、幅広い層に合唱が普及するための手法や事業のあり方を検討する。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	平成28年度以降の事業のあり方や手法の具体化	—	手法の検討		
	平成27年度の検討を踏まえ、平成28年度以降に実施する効果的な取組を具体化することを活動の指標とします。	—			

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

P D C A チェックシート (平成 27 年度実績評価)

		担当局	市民文化スポーツ局		
		担当課	漫画ミュージアム		
		課長名	川副		
		施策番号			
		Ⅲ - 2 - (2) - ⑤			
事業名	北九州市漫画ミュージアム普及事業				
事業概要	北九州市漫画ミュージアムにおいて、常設展示の充実・企画展・イベント等の開催を通じて漫画文化の普及を目指します。				■ 直営 □ 補助金 □ 全部委託 □ 負担金 ■ 一部委託 □ 指定管理 □ その他 ()
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費
		63,397 千円	千円		目安の金額 課長 1.00 人 係長 1.00 人 職員 3.00 人 (人件費備考)

【Action】改善		
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 堅調に推移している入館者数の維持	見直し内容 他都市類似施設、周辺商店街及び企業並びにあるあるCityテナントとの協力・連携を進めより一層の魅力向上を図る

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) 市民や国内外からの利用者	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 様々な漫画の魅力が幅広い世代に伝わり、多くの人へ漫画文化が普及するとともに館を含めた周辺地域への集客、にぎわいづくりを目指す。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	来館者年間10万人	102,547 人	100,000 人		
	年間10万人の来館者を目指し、小倉駅新幹線口のにぎわいづくりに寄与します。 (最終目標と目標年度) 100,000人 平成28年度				

活動計画	どうやって目的を達成するか 魅力的な企画展やワークショップ、イベントなどを開催し、目標入館者の確保に努めます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	企画展の開催回数	6 回	5 回		
	漫画やアニメなど、魅力ある様々な企画展を開催し、集客を図ります。				
	ワークショップの開催回数	59 回	48 回		
漫画文化に親しみ、将来の漫画家を目指す人材を育てるため、漫画の描き方などを教える漫画スクールや漫画等に関連したワークショップを開催します。(月4回程度を予定)					

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

		担当局 市民文化スポーツ局	
		担当課 スポーツ振興課	
		課長名 正代	
事業概要		施策番号	
事業名	市民体育祭		
		Ⅲ - 2 - (3) - ①	
事業概要	「市民皆スポーツ」をモットーに、スポーツ・レクリエーションの普及振興を図り、市民の健康で明るい市民生活に寄与するため、市内全域で各種大会や行事を開催します。		
		■ 直営 □ 補助金 □ 全部委託 ■ 負担金 □ 一部委託 □ 指定管理 □ その他 ()	
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額 (事業費備考)
		9,000 千円	千円
		目安の金額	課長 0.10 人
		4,650 千円	係長 0.20 人
			職員 0.20 人
(人件費備考)			

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 活動状況については、競技数が概ね目標に達成したことなどから着実に事業が進められ順調に推移しています。今後も事業効果は維持しながら効率的な運営について検討を続ける必要があります。	見直し内容	国の助成金を活用して実施しました。今後も事業効果は維持しながら経費節減の可能性について検討を続けます。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	市民	市民参加型のスポーツイベントを開催し、多くの市民に参加いただくことで、市民のスポーツに対する興味・関心を高め、生涯にわたりスポーツに取り組み、健康で充実した生活を送ろうとする気持ちを高めます。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	市民体育祭選手参加者数	31,640 人	30,000 人		
	市民のスポーツに対する興味・関心を高め、スポーツへの取組状況が表れている同スポーツイベントへの参加者数を指標とします。 (最終目標と目標年度) 30,000人 平成30年度				

活動計画	どうやって目的を達成するか イベント参加者数が増加するよう、競技団体とともに市民が参加しやすい内容にするよう努めるとともに競技数の確保に努める。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	市民体育祭競技数	91 種目	90 種目		
	多くの市民がイベントに参加できるよう競技団体等の協力の下、競技数の確保・増加に努めます。				

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

		担当局	市民文化スポーツ局		
		担当課	スポーツ振興課		
		課長名	正代		
事業概要		施策番号			
事業名	生涯スポーツ振興事業				Ⅲ - 2 - (3) - ①
事業概要	市民への生涯スポーツ振興・普及のため、各区においてスポーツ教室、交流大会、ニュースポーツ体験会などを開催します。				■ 直営 □ 補助金 □ 全部委託 □ 負担金 □ 一部委託 □ 指定管理 ■ その他 ()
コスト	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額
	20,018 千円	千円			課長 0.01 人 係長 0.05 人 職員 0.05 人
					(人件費備考)

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 活動状況については、競技者数が目標に達成したことなどから着実に事業が進められ順調に推移しています。今後も事業効果は維持しながら効率的な運営について検討を続ける必要があります。	見直し内容	今後も事業効果は維持しながら効率的な運営の可能性について検討を続けます。また、成果指標の最終目標と目標年度を、平成30年度12,600人に修正しました。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック		
	市民	市民参加型のスポーツイベントを開催し、多くの市民に参加いただくことで、市民のスポーツに対する興味・関心を高め、生涯にわたりスポーツに取り組み、健康で充実した生活を送ろうとする気持ちを高めます。				
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由	
	各区におけるニュースポーツ及びファミリースポーツ大会等の参加人数	12,549 人	12,600 人			
	本事業予算は、各区におけるスポーツ大会開催に係る審判謝礼金や用具代など大会運営を支える経費であり大会参加人数を指標とします。 (最終目標と目標年度) 平成30年度 12,600人					

活動計画	どうやって目的を達成するか 各区において、地域スポーツの普及振興を図るため各種スポーツの開催やニュースポーツの用具、備品整備を図ります。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック			
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由	
	各区におけるスポーツ行事の開催数	106 回	100 回			
	市民の機会創出を図るため、各区において行われる各種スポーツ大会開催数の確保・増加を図ります。					

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p>

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

		担当局 市民文化スポーツ局	
		担当課 スポーツ振興課	
		課長名	正代
事業概要		施策番号	
事業名	総合型地域スポーツクラブ育成・支援事業		
		Ⅲ - 2 - (3) - ①	
事業概要	総合型地域スポーツクラブは、人々が身近な地域でスポーツに親しむことのできるスポーツクラブです。多世代、多職種、多志向を特徴とし地域住民等により自主・主体的に運営される総合型地域スポーツクラブは、これからの地域スポーツの中核をなすものであり、この果たす役割は大きいことから総合型地域スポーツクラブの育成・支援に取り組みます。		
コスト	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)
事業費	3,779 千円	千円	人件費
		目金の金額	課長 0.05 人
		2,325 千円	係長 0.10 人
			職員 0.10 人
		(人件費備考)	
		()	

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 本市における成人の週1回のスポーツ実施率の向上のためにも、総合型地域スポーツクラブの果たす役割は大きいことから当該クラブの会員数拡大を目指すとともに、事業効果は維持しながら経費節減の可能性についての検討が必要です。	見直し内容	スポーツ推進委員に対する研修の場などで総合型地域スポーツクラブの周知をより一層図るとともに、今後も事業効果は維持しながら効率的な運営の可能性について検討を続けます。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	対象(誰を、何を) 市民	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 総合型地域スポーツクラブの会員数拡大による本市における成人の週1回のスポーツ実施率の向上を目指します。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック		
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方) 総合型地域スポーツクラブの会員数 スポーツをする人、支える人など市民のスポーツへの関わりが表れている総合型地域スポーツクラブの会員数を成果指標とします。 (最終目標と目標年度)平成32年度までに4,000人	上段:25年度実績 下段:26年度実績 2,320 人	27年度目標	2,700 人	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由

活動計画	どうやって目的を達成するか 総合型地域スポーツクラブの会員数増加のためには、市民にとってクラブへの入会を魅力あるものにする必要があります。広報・PR強化のみではなくクラブの質の向上を図るため、交流事業や勉強会を定期的に開催し、指導者の充実やクラブを円滑・安定的に運営できる人材の育成等に努めます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明) 総合型地域スポーツクラブのPR強化及び交流事業等の開催 「総合型地域スポーツクラブ連絡協議会」を通じて、交流行事や勉強会を開催します。	上段:25年度実績 下段:26年度実績 -	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
			交流行事や勉強会の定期的な開催		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

		担当局 市民文化スポーツ局	
		担当課 スポーツ振興課	
		課長名	正代
事業概要		施策番号	
事業名	夢・スポーツ振興事業		
		Ⅲ - 2 - (3) - ①	
事業概要	2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催を踏まえ、国際・全国大会で活躍する選手を育成するため選手個々の能力を高める事業を実施します。		
		<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他	
コスト	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)
	5,000 千円	千円	
		目安の金額	課長 0.02 人
		6,305 千円	係長 0.24 人
			職員 0.49 人
(人件費備考)			

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 市民から国際・全国大会で活躍する選手を輩出することで、市民のスポーツへの関心を高め、にぎわいのあるまちづくりにつなげます。	見直し内容	昨年度は選手強化事業を5種目で実施しました。平成27年度は種目を10種目程度に増やすなどより広く、充実した事業を実施していきます。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	市民	市民からオリンピックなどの国際・全国大会で活躍する選手が多く輩出されることで、スポーツを通じた元気なまちづくりを推進します。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	強化講習会等実施	-	教室・強化講習会等実施		
	競技団体の協力を得て、競技力を強化するスポーツ教室や強化講習会等を実施し、市民からオリンピック選手など国際・全国大会で活躍する選手を輩出することを旨とします。 (最終目標と目標年度)教室・強化講習会等実施 平成32年度				

活動計画	どうやって目的を達成するか 競技団体の協力を得て、競技力を強化するスポーツ教室や強化講習会等を実施します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	選手強化事業(スポーツ教室・強化講習会等)参加者数	-	500 人		
	「選手強化事業」は、スポーツの競技力向上により市民からオリンピック選手など国際・全国大会で活躍する選手の輩出につながるものであるため、同事業の参加者数を指標とします。				

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理 【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	

P D C A チェックシート (平成 27 年度実績評価)

		担当局	市民文化スポーツ局	
		担当課	スポーツ振興課	
		課長名	濱田	
事業名	北九州マラソン開催事業			施策番号
				Ⅲ - 2 - (3) - ①
事業概要	・主催：北九州市、(一財)福岡陸上競技協会 ・主管：北九州マラソン実行委員会 ・後援：国土交通省九州地方整備局北九州国道事務所ほか24団体(予定) ・コース：北九州市役所前～東田地区～戸畑駅前～東港～門司港～北九州国際会議場前 ・種目及び参加人数(予定) マラソン：10,000名、ベアリレーマラソン：100組200名、ファンラン(3km又は5km)：1,000名 ・大会当日および前日に関連イベントを開催			<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
				(人件費備考)
コスト	27年度当初予算額	27年度執行額	目安の金額	課長 2.50人
	99,300 千円	千円	63,750 千円	係長 2.00人 職員 2.00人

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	平成25年度の第1回大会は、「まちが一つになった」と評されるほどの盛り上がりを見せ、北九州市のイメージアップにも大いに貢献しました。今後は、その盛り上がりを上手く活かし、経済効果をより高める方策の検討が必要と考えます。	見直し内容 継続的な開催を踏まえた、事業運営方法等の見直しによる事業費の削減に努めます。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	市民 市内企業	観光客の増加によるまちの賑わいづくりや都市のイメージアップ、また、市内企業活動の活性化を図ります。 生涯スポーツ活動への関心や健康への意識を高めます。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由
	マラソン大会開催による経済波及効果	10.5 億円	11.5 億円		
	マラソン大会の開催による市内消費額の増加や地元企業への需要拡大、観光客の増加などによる、経済波及効果の向上を目指します。				
	(最終目標と目標年度) 継続的な開催				

活動計画	どうやって目的を達成するか	「北九州マラソン」の知名度、ブランド力を向上させるために、運営方法の見直しや市内外への情報発信力を強化します。 マラソンをはじめとするスポーツへの意識の向上を図るため、市民参加型の関連イベントの開催や広報活動を展開します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由
	国内外への広報活動の強化	3 箇所	3 箇所		
	他都市で開催される都市型大規模マラソン大会でのPR活動や、観光と組み合わせたインバウンドが期待できる韓国などアジア地域での広報活動を展開し、北九州マラソンの知名度・イメージの向上を図ります。				
	市民のスポーツ・健康に対する意識の向上	0 回	3 回		
市内で、ランニング教室やストレッチ教室など、マラソンやスポーツへの関心や健康への意識を向上させる関連イベントを実施します。					

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要					担当局	市民文化スポーツ局
					担当課	スポーツ振興課
事業名	国際大会・全国大会等スポーツ開催				課長名	正代
					施策番号	
事業概要	市内において国際大会・全国規模の大会の開催を行い、多くの市民にスポーツに関心を高め、「みる」スポーツのニーズを引き出した。スポーツに取り組むきっかけをつくります。また、高度なレベルの技術などを目にする事で、個々の競技力の向上につなげます。				事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
						コスト 事業費

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 今後も、(公財)北九州市体育協会や(財)西日本産業貿易コンベンション協会などの関係機関との協力を強化し、国際大会、全国大会の誘致を進めます。	見直し内容	新たにスポーツ施設以外の北九州メディアドームや西日本総合展示場の活用などを視野に入れ、関係団体との協力を一層強化しつつ、大型の大会誘致の促進していく。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を) 市民	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 実践するスポーツだけでなく、見るスポーツも多くの市民が望んでいます。競技レベルの高い大会を開催したり、誘致したりすることは、市民のスポーツに対する興味・関心を高め、スポーツに取り組むきっかけにもなります。また、高度な技術などを目にする事で、個々の競技力向上にもなり、まちの活性化につながります。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方) 国際・全国大会等の開催数 市内において国際・全国規模大会を開催することで、多くの市民にスポーツに関心をもちスポーツに取り組むきっかけづくりを行います。加えて高度な技術に触れることによる競技力の向上やその集客力によって地域の活性化を目指します。 (最終目標と目標年度) 30回 平成32年度	上段:25年度実績 下段:26年度実績 30 回	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	大型スポーツイベント(自主事業)の参加人数 門司港レトロマラソンを開催し、健康の増進、競技力向上、集客による地域の活性化を目指します。 (最終目標と目標年度) 3,000人 平成32年度	3,222 人	20 回		
			3,000 人		

活動計画	どうやって目的を達成するか 国際大会などの誘致活動や自主事業であるスポーツイベントを実施します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明) 国際大会など誘致活動の実施 大会開催のインセンティブを宣伝し、各関係団体と連携して誘致活動を行います。 自主事業の実施 自主事業の実施に伴い、関係機関との連絡調整を行いません。	上段:25年度実績 下段:26年度実績 -	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
			誘致活動の実施		
		1 件	1 件		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果)の分析 ※民間活力導入の視点

P D C A チェックシート (平成 27 年度実績評価)

		担当局	市民文化スポーツ局	
		担当課	スポーツ振興課	
		課長名	正代	
		施策番号		
		Ⅲ - 2 - (3) - ②		
事業名	ギラヴァンツ北九州支援事業			
事業概要	本市唯一のプロスポーツチームである「ギラヴァンツ北九州」を支援するため、ホームゲーム開催経費や遠征費の一部を補助しています。			事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)
		60,000 千円	千円	
		目安の金額	課長 0.05 人	(人件費備考)
		3,075 千円	係長 0.10 人 職員 0.20 人	

【Action】改善

課題	H25年度の評価結果を受けての課題 クラブへの愛着感を向上させる取り組みや、ホームゲームへの来場に繋がる取り組みなどを、更に実施していく必要があると考えています。	見直し内容	来場者のホスピタリティ向上に繋がる取り組みをクラブと検討します。
----	--	-------	----------------------------------

【Plan】計画

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	【Do】実施 → 【Check】評価	
	ギラヴァンツ北九州	本市唯一のプロスポーツチームである「ギラヴァンツ北九州」が、市民の一体感を高め、誇りや愛着を持てるシンボルとなり、真に市民に愛されるチームとなることを目指します。	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方) ギラヴァンツ北九州の市民認知度 チームの認知度は、愛着感を高めるために重要であると考え設定します。 (最終目標と目標年度)平成28年度90%以上	上段:25年度実績 下段:26年度実績 89 %	27年度目標	27年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由
	ギラヴァンツ北九州主催試合の平均入場者数 より多くの市民に実際に試合を見ていただくことが、チームの認知度や愛着感を高めるために重要であると考え設定します。最終目標はJ2の平均以上とします。 (最終目標と目標年度)平成28年度6,500人以上(H24年度J2平均6,423人)	3,175 人 4,500 人			

【Do】実施

活動計画	どうやって目的を達成するか ホームゲームを安全かつ安定的に開催することにより、来場された方に試合を楽しんでいただくことで、チームを応援する雰囲気醸成します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明) ホームゲーム開催数 ホームゲームを事故なく安定的に開催します。	上段:25年度実績 下段:26年度実績 21 試合	27年度目標	27年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由
	来場者に対するホスピタリティの向上 観戦環境を整え、来場者にスポーツを観戦する楽しさを感じていただきます。	- 誰もが楽しめるスタジアムの雰囲気づくり			

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」 (同成果を低コストで) 「効率性」 (同コストで高成果)の分析 ※民間活力導入の視点
-----------	--

P D C A チェックシート (平成 27 年度実績評価)

		担当局	市民文化スポーツ局			
		担当課	スポーツ振興課			
		課長名	正代			
		施策番号				
		Ⅲ - 2 - (3) - ②				
事業名	ホームタウン推進事業					
事業概要	本市をホームタウン・準ホームタウンとする、「ギラヴァンツ北九州」や「堺プレイザーズ」「福岡ソフトバンクホークス」の市民観戦事業や、体験教室の開催など、市民がスポーツに親しむきっかけ作りを実施します。				事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	
コスト	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.05 人
	64,450 千円	千円			6,575 千円	係長 0.15 人 職員 0.60 人

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 競技場などでのスポーツ観戦を行なったことがない層への積極的なアプローチが必要だと考えています。	見直し内容	ギラヴァンツ北九州のホームゲームで、親子を対象としたスポーツ教室と試合への招待をセットとしたイベントなどを積極的に開催することを検討します。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況		
	市民	競技レベルの高いプロスポーツや国際的・全国的スポーツ大会などを「みる」機会の充実を図ることにより、市民の一体感の醸成や青少年の健全育成等を図ることを目指します。	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック		
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	スポーツ観戦率 競技レベルの高いプロスポーツの試合を「みる」機会の充実を図る指標として欠かせないため設定します。最終目標は、北九州市スポーツ振興計画の目標である40%以上とします。 (最終目標と目標年度)平成32年度までに40%以上	24 %	34 %		

活動計画	どうやって目的を達成するか 本市をホームタウンとする「ギラヴァンツ北九州」をはじめ、準ホームタウンとする「堺プレイザーズ」等のスポーツチームの試合観戦事業等を実施します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	ギラヴァンツ北九州市民招待事業等による観戦者数 ギラヴァンツ北九州のホームゲームを「みる」機会を創出し、スポーツ観戦のきっかけ作りとします。 堺プレイザーズ親子招待事業による観戦者数 親子を対象に、本市を準ホームタウンとする堺プレイザーズの試合観戦機会を創出し、スポーツ観戦機会のきっかけ作りとします。	18,314 人 410 人	11,000 人 400 人		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート (平成 27 年度実績評価)

		担当局	市民文化スポーツ局	
		担当課	大規模大会誘致推進室	
		課長名	正代	
		施策番号		
		Ⅲ - 2 - (3) - ②		
事業名	大規模国際大会の日本開催に向けた関連事業			
事業概要	生涯スポーツの振興とまちのにぎわいづくりを目的に、ラグビーワールドカップ2019及び2020東京オリンピック・パラリンピック等の大規模国際大会のキャンプ地誘致等に向けて、戦略的な誘致プロモーションの展開や、官民一体となった「誘致委員会」による積極的な活動及び「備品・設備」等の整備を実施します。			
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)
		30,500 千円	千円	夢・スポーツ事業を除く
			目安の金額	課長 0.50 人 係長 1.00 人 職員 1.00 人
			23,250 千円	(人件費備考)

<input type="checkbox"/> 直営	<input type="checkbox"/> 補助金
<input type="checkbox"/> 全部委託	<input checked="" type="checkbox"/> 負担金
<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託	<input type="checkbox"/> 指定管理
<input type="checkbox"/> その他	

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	見直し内容	今後、一層活発になるキャンプ地誘致の都市間競争を有利に進め、大規模大会等の誘致推進を図るため、戦略的な誘致プロモーションの展開や充実した施設・設備環境の整備を進める必要があります。また、(公財)西日本産業貿易コンベンション協会や地元競技団体等と連携を深め、より一層の受け入れ体制の強化・整備を図ります。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	市民	スポーツ意欲の向上や青少年の健全育成及び生涯スポーツの振興を図ります。また、トップアスリートの受け入れや市民交流事業等を推進することにより、都市のにぎわいを生み出し、地域経済の活性化を推進します。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	
	ラグビーワールドカップ2019及び2020東京オリンピック・パラリンピックにおけるキャンプ地誘致数	-	戦略的な誘致プロモーション活動等の実施	#VALU FI %	
	ラグビーワールドカップ2019では国単位の、2020東京オリンピック・パラリンピックでは国単位又は競技単位でのキャンプ地誘致を目指します。 (最終目標と目標年度) 1ヶ国又は1競技以上 平成32年度		3件以上		
	シティプロモーションの一環としての国際大会等誘致件数 ラグビーワールドカップ2019及び2020東京オリンピック・パラリンピックの前に、本市の知名度向上等シティプロモーションの一環として、また、誘致の実績を積むため国際大会や全国大会等を誘致します。 (最終目標と目標年度) 毎年1件以上 平成31年度				

活動計画	どうやって目的を達成するか	キャンプ地誘致の都市間競争を有利に進め戦略的なプロモーション活動を展開するため、官民一体となった「誘致委員会」による積極的な活動の推進を図ります。また、各種国際大会やキャンプ地等をの誘致に向けた実績を積むため、スポーツ競技用備品及び設備等をの整備を推進します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	
	誘致委員会の開催回数	-	2 回	0.0 %	
	キャンプ地誘致の都市間競争を有利に進め戦略的なプロモーション活動を展開するため、官民一体となった「誘致委員会」を開催し、誘致のための戦略等を協議し、積極的な活動を展開します。		15 ヶ国		
	キャンプ地誘致対象国への戦略的な誘致プロモーション活動等の実施 ラグビーワールドカップ2015イングランド大会参加各国の駐日大使館等への本市PR活動や、キーパーソンへの本市PR活動等を実施します。				0.0 %

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>【経済性】(同成果を低コストで) 【効率性】(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p>

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要					担当局	市民文化スポーツ局	
					担当課	スポーツ振興課	
事業概要					課長名	大貝	
					施策番号		Ⅲ - 2 - (3) - ③
事業名	戸畑D街区スポーツ施設整備事業					事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 () (人件費備考)	
事業概要	戸畑区内に点在し老朽化したスポーツ施設を、戸畑区役所横の浅生小・中学校等跡地(D街区)に集約整備します。						
コスト	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.30 人	
	2,585,800 千円	千円			18,700 千円	係長 1.00 人 職員 0.70 人	

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 順調に事業進捗しています。	見直し内容	順調に事業が進んでいるため、今後とも計画通り事業を進めていきます。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を) 市民	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 戸畑区役所横の浅生小・中学校跡地(D街区)において、戸畑区内に点在し、老朽化したスポーツ施設を集約し、本市のスポーツの拠点として体育館、武道場、室内温水プール、テニスコート、などを整備します。これにより、効率的な運営を進めるとともに、スポーツ環境の充実を目指し、市民の健康増進や地域の活性化を図っていきます。		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由
	年間利用者数 集約整備後の施設利用者数を成果目標とします。 (平成24年度における戸畑区内の現状施設の利用者数:約140,000人) (最終目標と目標年度) 190,000人 平成30年度	-	-		

活動計画	どうやって目的を達成するか 平成22年度から、事業について地元や関係者に説明会等を重ね、合意形成を図ってきました。 平成25年度は、実施設計及び建設予定地内の既存建物の解体を行いました。 平成26年度は、平成28年度の部分供用開始に向けて、建築工事に着手しました。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	戸畑D街区スポーツ施設整備事業の進捗率 平成28年度の部分供用開始を目指し、事業の進捗率を指標とします。 (事業費ベース)	6 %	95 %		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

P D C A チェックシート (平成 27 年度実績評価)

		担当局	市民文化スポーツ局				
		担当課	地域振興課				
		課長名	杉本				
		施策番号					
		Ⅲ - 3 - (1) - ①					
事業名	地域総括補助金						
事業概要	各地域団体が連携・協力し、まちづくり協議会を中心に地域が一体となった地域づくりを促進するため、これまで市各部署が事業ごとに地域団体に交付していた補助金を可能な限り一本化し、まちづくり協議会に交付します。				事業手法 <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()		
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.05 人
		394,392 千円	千円			3,825 千円	係長 0.10 人 職員 0.30 人

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	まちづくり協議会へ地域総括補助金導入の働きかけを行い、導入数は増加しているものの、「体制が整わない」等の理由で導入を見送られている地域もあります。	見直し内容 導入団体拡大のため、引き続き、区役所コミュニティ支援課による、制度の周知や事務手順のマニュアルの配布等を行ないます。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) まちづくり協議会	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 地域総括補助金を導入したまちづくり協議会が、この補助金を原資に活動し、地域が一体となった住民主体の地域づくり・まちづくりを自主的に進めるようになることを目指します。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由
	地域総括補助金を導入したまちづくり協議会数 128 団体 地域総括補助金制度を導入し、これを原資に自主的な地域づくり・まちづくりの活動を行ったまちづくり協議会の数を指標とします。 (最終目標と目標年度) 平成30年度 136団体 134 団体				

活動計画	どうやって目的を達成するか 区役所コミュニティ支援課と連携し、未導入団体への積極的な働きかけを行うとともに、申請方法の簡素化、他に加えることのできる補助金がないのかの洗い出しを行い、その改善策等を検討します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	地域総括補助金未導入まちづくり協議会への働きかけ 6 団体 地域総括補助金制度を導入していないまちづくり協議会(6団体)に対し、各区コミュニティ支援課が継続的に制度の説明等、働きかけを行います。 6 団体				

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

P D C A チェックシート (平成 27 年度実績評価)

		担当局	市民文化スポーツ局				
		担当課	地域振興課				
		課長名	杉本				
		施策番号					
		Ⅲ - 3 - (1) - ①					
事業名	住民主体の地域づくりの促進						
事業概要	地域情報や課題解決のアイデア等を盛り込んだ「地域カルテ」の作成や、まちづくり協議会の活性化を図るため、活動の参考となる事例の紹介等を行う「地域のちから」報告会や、「地域づくりマネジメント研修」を開催し、住民主体の地域づくりを促進します。				事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()		
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.05 人
		6,547 千円	千円			3,575 千円	係長 0.15 人 職員 0.20 人

【Action】改善		
課題	H25年度の地域カルテづくり事業を通して、様々な地域活動の取り組みに向けての気運が高まっています。しかし、課題解決に向けた新たな活動を開始できない地域や継続して活動に取り組めない地域もあります。	見直し内容 「地域カルテづくり事業」については、引き続き、実施の働きかけを各区役所コミュニティ支援課との連携を強化しながら行うとともに、作成した地域カルテに基づく新たな取り組みを支援する「地域カルテづくりフォローアップ事業」を実施し、まちづくり協議会が取り組む新たな地域課題の解決を図る活動を促進します。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) まちづくり協議会・市民	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 地域カルテを通じて、住民による地域の課題や地域資源の共有化、課題解決のための処方箋づくりを進めるとともに、それに基づく、新たな地域課題解決に向けた取り組みを支援し、住民主体の地域づくりを促進します。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	地域カルテフォローアップ事業に取り組んだまちづくり協議会の数	—	10 団体		
	地域カルテフォローアップ事業に取り組む、地域の課題解決に向けた新たな活動を実施したまちづくり協議会の数を指標とします。 (最終目標と目標年度) 10団体 毎年度				

活動計画	どうやって目的を達成するか まちづくり協議会や地域づくり団体等に事業の主旨を説明し、事業実施の働きかけを行います。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	地域づくりカルテ事業実施についてまちづくり協議会への働きかけ	7 団体	7 団体		
	地域カルテづくりについて、まちづくり協議会に対し、区役所コミュニティ支援課と連携し、継続的に事業実施の働きかけを行います。				
	地域カルテフォローアップ事業実施についてまちづくり協議会への働きかけ これまで地域カルテづくり事業に取り組んだまちづくり協議会に対し、「地域カルテ」に基づく新たな活動を実施をまちづくり協議会に働きかけます。	—	10 団体		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

P D C A チェックシート (平成 27 年度実績評価)

		担当局	市民文化スポーツ局	
		担当課	地域振興課	
		課長名	杉本	
		施策番号		
		Ⅲ - 3 - (1) - ②		
事業名	市民センターの充実			
事業概要	市民センターの管理運営を円滑・適正に行うため、公募により多様な人材を市民センター館長として採用し、地域の活動を担うまちづくり協議会への管理委託などを行います。また、市民センターを拠点とした地域づくりを推進するため、未整備校区に市民(サブ)センターを整備し、老朽化対策やバリアフリー化を図り計画的な改修を行います。			
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)
		2,146,385 千円	千円	
		目金の金額	課長 1.00 人	事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 () (人件費備考)
		46,250 千円	係長 1.00 人	
			職員 3.30 人	

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	コミュニティ活動への参加人数は、目標を上回っていますが、今後は、市民センターを拠点とした地域課題の解決に向けた取り組みに、より多くの人に参加してもらう必要があります。	見直し内容 市民センターの事業や地域の活動について、ホームページ等でタイムリーに情報発信を行い、地域住民にお知らせしていきます。また、アセットマネジメントを踏まえて、住民にとって使いやすい市民センターの整備に努めます。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	地域住民	市民センターを拠点とした地域活動を活性化させるため、市民センターの安全性や利便性の向上を図り、より多くの地域住民が活動に参加し、コミュニティ活動を活発に行っている状態を目指します。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由
	市民センター1館当たりの利用者数 1館当たりの利用者は、コミュニティ施設としての市民センターの利用度を図る指標になるため、成果指標としました。 (最終目標と目標年度) 42,000人 平成28年度	40 千人	42 千人		
	市民センターにおけるコミュニティ活動の参加人数(延べ) 市民センター全館におけるコミュニティ活動参加者の合計人数。市民センターにおける様々な活動のうち、コミュニティ活動の参加人数は地域活動の状況を把握する目安となるため指標としました。 (最終目標と目標年度) 1,955千人 平成28年度	1,935 千人	1,955 千人		

活動計画	どうやって目的を達成するか	市民センターの利用者増加に向けて、館長及び市民センター職員の能力向上を図る研修を行うとともに、更なる情報発信に努めます。また、老朽化が進んだ市民センターについては、耐震化や施設機能の向上を図るための大規模改修を計画的に行います。市民サブセンターの設置については、地元との合意が得られたところから順次整備をします。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	ホームページを毎月1回以上更新している市民センターの館数 市民センターの事業や地域の活動などの様々な情報をタイムリーに発信するために、ホームページによる広報活動を充実させます。	120 館	129 館		
	市民センター整備の進捗状況 本年度は大規模改修3館(工事2館、設計1館)、空調改修1館の実施を予定しており、年度末までに全ての完了を目指します。また、新設1館については、平成28年度末までの完了を目指します。	大規模改修工事1館 設計4館 空調改修2館 エレベーター設置1館 耐震補強工事2館	新設工事1館 大規模改修工事2館 大規模改修設計1館 空調改修工事1館		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

		担当局	市民文化スポーツ局		
		担当課	地域振興課		
		課長名	杉本		
事業概要		施策番号			
事業名	自治会・町内会活性化の促進				Ⅲ - 3 - (1) - ③
事業概要	自治会と連携しながら、加入率向上や組織・活動の見直し及び人材育成など新たな課題への対応につながる様々な事業に取り組み、自治会・町内会の活性化を図ります。				事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費
		31,075 千円	千円		4,095 千円
				目安の金額	課長 0.03 人 係長 0.30 人 職員 0.10 人
				(人件費備考)	

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 地域づくり活動への貢献意識や参加の割合は高いものの、自治会加入世帯が減少し、活動への参加者が少なくなるなど、自治会の活性化につながっていません。	見直し内容	自治会活動の認知や理解促進を図るため、PR強化に向けた事業を行い、加入のきっかけに繋がります。また、自治会が加入の働きかけを行いにくい、マンション等の集合住宅に対する加入促進活動を支援します。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を) 住民	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 住民の自治会への理解が深まり、活動に積極的に参加する等、自治会活動が活発化する状態を目指します。		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方) 地域づくり活動へ肯定的な考えの市民の割合(意識)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由
	市民意識調査の「活動へ参加している人」と「機会があれば参加したいと考えている人」の割合を指標とします。高齢等で参加できない人を考慮し、85%を目指します。 (最終目標と目標年度) 平成27年度 85%	80.1 %	85 %		
	地域づくり活動への参加者の割合(行動) 市民意識調査の活動への参加率を指標とします。目標は、活動には概ね1世帯から1人が参加していること、1世帯あたりの人数が平均2.3人であることを踏まえて、全人口に対する参加者の割合46%を目指します。 (最終目標と目標年度) 平成27年度 46%	42 %	46 %		

活動計画	どうやって目的を達成するか 自治会・町内会が行う加入者の増加や人材育成等の取り組みを支援します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明) 広報・研修等の事業数	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	自治会活動の活性化及び加入促進につながる広報・研修等の事業数	13 回	15 回		
	マンション等の加入促進に向けた、マンション管理会社への働きかけ	-	8 企業		
	市内の主要なマンション管理会社へ自治会設立の助言等、働きかけを行います。				

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理 【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	

P D C A チェックシート (平成 27 年度実績評価)

		担当局	市民文化スポーツ局				
		担当課	市民活動推進課				
		課長名	山田				
		施策番号					
		Ⅲ - 3 - (2) - ①					
事業名	NPO・ボランティア活動促進事業						
事業概要	NPOやボランティアなどの市民活動の促進に加え、NPOと行政の協働を推進するため、活動や協働等に関する相談・助言、情報提供、研修・啓発事業を実施するとともに、NPO法人の設立を支援します。				事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 () (人件費備考)		
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.30 人
		17,664 千円	千円			19,200 千円	係長 0.60 人 職員 1.30 人

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	計画どおり推移していますが、NPO・ボランティア活動を促進するためには、新たな活動参加者の掘り起しが必要です。	見直し内容 NPO・ボランティア活動に関する相談・助言、情報提供などの支援を引き続き行うとともに、市民向けのNPO活動等の入門講座や講演会の充実を図ります。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	市民、NPO等	地域の課題に自ら対応し、市民が自発的、主体的に公益活動に参画する市民社会の形成に向けて、まちづくりの重要な担い手であるNPOやボランティア団体などの活動を促進します。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由
	新規設立NPO法人数(累計)	31 法人	60 法人		
	市民が主体的に発足させたNPO法人数です。 (最終目標と目標年度) 平成28年度 75法人				
	市民活動サポートセンター利用者数(単年度)	22,935 人	23,500 人		
	今後、市民活動に携わりたい方々や、既に活動に取り組んでいる団体等からの相談や施設利用など、市民活動サポートセンターの利用者数です。 (最終目標と目標年度) 平成28年度 24,000件				

活動計画	どうやって目的を達成するか	市民活動サポートセンターを拠点に、NPO・ボランティア団体に関する総合的な相談・助言、NPO・ボランティア活動情報の提供、専門講座・講演会等の研修・啓発を実施します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	講座実施数	12 講座	12 講座		
	今後、市民活動に携わりたい方々への啓発や、既に活動に取り組んでいる団体の運営強化、活動の充実を支援する講座を開催します。				
	広報誌などの発行	12 回	12 回		
	市民活動に取り組む団体等に、他団体の活動やイベント、助成金など、活動に役立つ情報を提供するため、広報誌を発行します。				

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果)の分析 ※民間活力導入の視点

P D C A チェックシート (平成 27 年度実績評価)

		担当局	市民文化スポーツ局						
		担当課	市民活動推進課						
		課長名	山田						
事業名	NPO公益活動支援事業				施策番号				
					Ⅲ - 3 - (2) - ①				
事業概要	市民活動のさらなる促進を図るため、NPO等が専門性を発揮して行う、意欲的で先進的な取り組みを支援します。また、予め市が設定したテーマに対して、NPO等から専門性を活かした提案を募集し、提案団体と市が協働して取り組む事業に経費の一部を補助します。				事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()				
						コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額
		4,275 千円					4,650 千円		

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 市民活動の更なる拡大のためには、補助制度を広く周知する必要があります。	見直し内容	NPO公益活動の成功事例や、NPO協働提案モデル事業の協働事例の情報発信に努めます。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック		
	NPO等	地域の課題解決につながる活動や公共の福祉の向上に資する活動などに対して助成を行うとともに、これらの活動事例の紹介、情報提供を通して、本市における市民活動の拡大を図ります。				
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由	
	NPO公益活動支援事業補助金の交付件数(累計)	52 件	68 件			
	市内全域を対象とするまちづくり活動、地域課題の解決につながる活動、市のイメージアップに寄与する活動に対する補助交付件数の累計を評価の指標とします。 (最終目標と目標年度) 平成28年度に補助事業累計件数が74件					
	成果発表会の参加人数(累計)	199 人	280 人			
	活動事例の幅広い情報提供等を通して、本市における市民活動の更なる発展を図るため、成果発表会の参加人数を指標とします。 (最終目標と目標年度) 平成28年度に参加者累計人数が330人					

活動計画	どうやって目的を達成するか 地域に密着した市民活動を促進するまちづくりステップアップ事業の採択団体や市民活動サポートセンターの登録団体などを中心に幅広く広報することにより、当事業の利用促進を図っていきます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	NPO等に対する補助事業の広報	—	2 回		
	当事業の活用を幅広く市民に広報します。				
	補助事業のモデルケースの広報	2 回	2 回		
	地域課題の解決につながるような先進的な取り組みなど、採択された事業の成果発表会を実施するとともに、市民活動サポートセンターのHPや広報誌等でモデルケースを情報発信します。				

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

P D C A チェックシート (平成 27 年度実績評価)

		担当局	市民文化スポーツ局			
		担当課	市民活動推進課			
		課長名	山田			
事業名	まちづくりステップアップ事業				施策番号	
					Ⅲ - 3 - (2) - ②	
事業概要	市民主体のまちづくりを推進するため、地域の特性を活かした活動や地域の活性化に資する新たなまちづくり活動を支援します。				<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	
					(人件費備考) (人件費備考)	
コスト	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費	目金の金額	課長 0.03 人
	5,964 千円	千円			1,220 千円	係長 0.05 人 職員 0.05 人

【Action】改善		
課題	H25年度の地域イベント等、住民相互の交流促進や地域の活性化などに大きな成果をあげていますが、引き続き市民主体のまちづくりを推進するため、より多くの市民や団体に制度を周知する必要があります。	見直し内容 地域課題の解決につながるような先進的な取り組みなど、補助事業のモデルケースを市民活動サポートセンターのHP等で情報発信し、全市で質の高い事業の実施を促進していきます。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	NPO等	市民が、地域の特性を活かして取り組む公益的な活動(地域住民の交流の促進に関する活動や子どもの健全育成・子育ての支援に関する事業など)に対して助成を行い、市民主体のまちづくりを推進します。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	NPO等に対する補助金交付件数(累計)	182 件	243 件		
	NPO等に対する補助金交付件数の累計を評価の指標とし、より多くの団体が市民活動に関わるきっかけづくりとなるような補助交付の実施に努めます。 (最終目標と目標年度)平成28年度までに273件				

活動計画	どうやって目的を達成するか	地域課題の解決につながるような先進的な取り組みなど、補助事業のモデルケースを市民活動サポートセンターのHPで情報発信し、その活用を広く市民にお知らせします。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	各区での補助事業の周知	-	14 回		
	各区での自治会長会議、市民センター館長会議等、様々な機会を通じて補助事業の周知を行い、地域に密着した市民活動団体等に広報が行きわたるよう努めます。				
	補助事業のモデルケースの広報	H25年度まではHP等での発信は実施していません。H26年度から実施予定です。	1 回		
	地域課題の解決につながるような先進的な取り組みなど、補助事業のモデルケースを市民活動サポートセンターのHP等で情報発信し、成果の高い事業が実施されるよう努めます。				

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

		担当局	市民文化スポーツ局		
		担当課	市民活動推進課		
		課長名	山田		
事業概要		施策番号			
事業名	「NPOとの協働によるまちづくり」人材育成事業				Ⅲ - 3 - (3) - ①
事業概要	協働に関する理解を深めるための研修や協働事業を実施するために必要な団体運営力向上を図るための研修を実施します。				■ 直営 □ 補助金 □ 全部委託 □ 負担金 ■ 一部委託 □ 指定管理 □ その他 () (人件費備考)
コスト	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.10 人
	744 千円	千円		3,650 千円	係長 0.10 人 職員 0.20 人

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 NPO、地域団体等様々な主体が研修に参加し、協働に対する理解を深めることができませんでした。協働の推進のためには、引き続き協働に対する意識の醸成を図っていく必要があります。	見直し内容	「協働のあり方に関する基本指針」に基づいて、協働意識向上のための研修の充実、協働事例の情報発信に取り組み、協働に関わる人材の育成に努めます。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) NPO等	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 多様化・複雑化する市民ニーズに対応しながら、市とNPO等とが、協働して地域課題の解決に取り組むことが重要です。そのため、協働を進めるための人材育成を図ります。		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方) NPOとの協働についての研修への参加者数(累計)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由	
	536 人		700 人			
	協働に必要な運営力向上を図る研修や、NPOとの協働に対して理解を深めるための研修への参加者の累計を評価の指標とします。					
	(最終目標と目標年度)平成28年度までに参加者数850人					

活動計画	どうやって目的を達成するか 協働への理解促進を図る研修や団体運営力向上を図るための研修を実施します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明) セミナー開催数	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由	
	3 回		3 回			
	活動指標として、協働理念の普及を推進するために実施するセミナーの開催数を評価の指標とします。					

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果)の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要						担当局	市民文化スポーツ局
						担当課	市民活動推進課
事業名 多様な主体による市民活動の輪づくり事業						課長名	山田
						施策番号	
事業概要 市民主体のまちづくりを推進するため、市民活動への理解を深め、新たな担い手の参加を促すとともに、NPOと様々な団体間のネットワークづくりや協働を支援します。						事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
							()
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.10 人
		3,000 千円	千円			5,400 千円	係長 0.20 人 職員 0.30 人

【Action】改善		
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 NPO・企業・大学等、まちづくりにかかわる多様な活動主体が連携するためのネットワークの構築が必要です。	見直し内容 平成27年度 新規事業

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を) NPO、企業、大学生	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) NPO・企業等、多様な主体同士の顔の見える関係づくりを支援し、団体間の協働によるまちづくりを推進していきます。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	NPOと企業や大学生との協働件数	—	—		
	NPOと企業や大学生との協働件数を成果の指標とします。H27はNPO等の多様な主体の協働のため、ネットワークづくりを重点的に支援します。	—	—		
	(最終目標と目標年度) 平成28年度までに5件				

活動計画	どうやって目的を達成するか 大学や企業を訪問し、様々なNPOによる活動紹介や交流会を実施します。これにより、ネットワーク構築や大学生のボランティア活動を促進します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	交流会の実施(累計)	—	4 回		
	NPOと企業、NPOと大学生の交流会実施回数を活動指標とします。	—	—		
	交流会への参加人数(累計)	—	160 人		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

		担当局 市民文化スポーツ局	
		担当課 市民活動推進課	
		課長名	山田
事業概要		施策番号	
事業名	NPO・ボランティア活動促進事業		Ⅲ - 3 - (3) - ②
事業概要	NPOやボランティアなどの市民活動の促進に加え、NPOと行政の協働を推進するため、活動や協働等に関する相談・助言、情報提供、研修・啓発事業を実施するとともに、NPO法人の設立を支援します。		事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
コスト	事業費	27年度当初予算額 17,664 千円	27年度執行額 千円
		(事業費備考)	
		目安の金額 19,200 千円	課長 0.30 人 係長 0.60 人 職員 1.30 人 (人件費備考)

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 計画どおり推移していますが、NPO・ボランティア活動を促進するためには、新たな活動参加者の掘り起しが必要です。	見直し内容	NPO・ボランティア活動に関する相談・助言、情報提供などの支援を引き続き行うとともに、市民向けのNPO活動等の入門講座や講演会の充実を図ります。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) 市民、NPO等	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 地域の課題に自ら対応し、市民が自発的、主体的に公益活動に参画する市民社会の形成に向けて、まちづくりの重要な担い手であるNPOやボランティア団体などの活動を促進します。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	新規設立NPO法人数(累計)	31 法人	60 法人		
	市民が主体的に発足させたNPO法人数です。 (最終目標と目標年度) 平成28年度 75法人				
	NPOとの協働事業数	164 件	185 件		
NPOの専門性や先駆性を活かし、行政と協働で事業を行った件数です。 (最終目標と目標年度) 平成28年度 195件					

活動計画	どうやって目的を達成するか 市民活動サポートセンターを拠点に、NPO・ボランティア団体に関する総合的な相談・助言、NPO・ボランティア活動情報の提供、専門講座・講演会等の研修・啓発を実施します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	講座実施数	12 講座	12 講座		
	今後、市民活動に携わりたい方々への啓発や、既に活動に取り組んでいる団体の運営強化、活動の充実を支援する講座を開催します。				
	広報誌などの発行	12 回	12 回		
市民活動に取り組む団体等に、他団体の活動やイベント、助成金など、活動に役立つ情報を提供するため、広報誌を発行します。					

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果)の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

		担当局	市民文化スポーツ局		
		担当課	市民活動推進課		
		課長名	山田		
事業概要		施策番号			
事業名	「NPOとの協働によるまちづくり」人材育成事業				Ⅲ - 3 - (3) - ②
事業概要	協働に関する理解を深めるための研修や協働事業を実施するために必要な団体運営力向上を図るための研修を実施します。				■ 直営 □ 補助金 □ 全部委託 □ 負担金 ■ 一部委託 □ 指定管理 □ その他 () (人件費備考)
コスト	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.10 人
	744 千円	千円		3,650 千円	係長 0.10 人 職員 0.20 人

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 NPO、地域団体等様々な主体が研修に参加し、協働に対する理解を深めることができませんでした。協働の推進のためには、引き続き協働に対する意識の醸成を図っていく必要があります。	見直し内容	「協働のあり方に関する基本指針」に基づいて、協働意識向上のための研修の充実、協働事例の情報発信に取り組み、協働に関わる人材の育成に努めます。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) NPO等	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 多様化・複雑化する市民ニーズに対応しながら、市とNPO等とが、協働して地域課題の解決に取り組むことが重要です。そのため、協働を進めるための人材育成を図ります。		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方) NPOとの協働についての研修への参加者数(累計)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由	
	536 人		700 人			
	協働に必要な運営力向上を図る研修や、NPOとの協働に対して理解を深めるための研修への参加者の累計を評価の指標とします。					
	(最終目標と目標年度)平成28年度までに参加者数700人					

活動計画	どうやって目的を達成するか 協働への理解促進を図る研修や団体運営力向上を図るための研修を実施します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明) セミナー開催数	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由	
	3 回		3 回			
	活動指標として、協働理念の普及を推進するために実施するセミナーの開催数を評価の指標とします。					

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果)の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

		担当局	市民文化スポーツ局				
		担当課	市民活動推進課				
		課長名	山田				
事業名	事業概要				施策番号		
					IV - 2 - (2) - ②		
事業概要	少子高齢化の進行に伴い発生した様々な課題を解決する取り組みを、積極的に行うNPOが増えています。しかし、NPOの活動は無給のボランティアに支えられており、人件費を賄える団体は非常に少なく、活動の継続に困難を抱えています。そこで、資金調達力や企画力の向上を図るセミナーを実施し、NPOの持続可能な活動のための仕組みづくりを支援し、経済的に自立したNPO団体数の増加を図ります。				<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()		
					(人件費備考)		
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.10 人
		1,457 千円	千円			3,650 千円	係長 0.10 人 職員 0.20 人

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 NPO等の活動を活性化させるためには、企画力・資金調達力等、団体運営力の向上が必要です。	見直し内容	ファンドレイジングセミナー等を実施し、持続可能な活動ができる団体が増えていこう、側面的な支援を行います。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を) NPO等	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 資金調達力の向上により、収入が安定し、活動が持続可能な状態になることを目指します。		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方) 収入増加団体数(累計) ファンドレイジングセミナー・企画力向上セミナーの受講や、専門家の派遣を受けて、対前年度比で収入の増加が図れた団体数の累計を指標とします。 (最終目標と目標年度) 平成28年度までに9団体	上段:25年度実績 下段:26年度実績 -	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
			3 団体		

活動計画	どうやって目的を達成するか ファンドレイジングなどの専門性の高い研修を実施し、NPOの資金調達力や団体運営力の向上を促進していきます。		活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明) セミナー開催数 ファンドレイジングセミナーや企画力向上セミナーの開催数を活動の指標とします。 専門家を派遣した団体数(累計) ファンドレイジング等の専門家をNPOに派遣し、資金調達の仕組みづくりを支援します。	上段:25年度実績 下段:26年度実績 -	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
			3 回		
			6 団体		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

		担当局	市民文化スポーツ局		
		担当課	文学館		
		課長名	米満		
事業概要	事業名	事業概要			
		文学館普及研究費			
		施策番号			
		IV - 4 - (1) - ②			
事業概要		北九州市ゆかりの文学者の業績を企画展等で紹介し、本市の文芸の振興に功績のあった文学者を市内外に発信していきます。			
		■ 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 () (人件費備考)			
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費
		23,125 千円	千円		目安の金額
				課長 0.50 人	
				係長 0.50 人	
				職員 0.25 人	
		12,625 千円			

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 目標には達しているものの、文学館がより多くの市民に親しまれる施設となるため、更なる入場者増が望まれます。	見直し内容	企画展のラインナップを見直し、文学館の本来の目的である北九州ゆかりの文学者に関する自主企画展とともに、より集客効果の高い展覧会の開催に取り組めます。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を) 内外からの利用者	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 北九州市ゆかりの文学者の業績を企画展等で紹介し、本市の文芸の振興に功績のあった文学者を市内外に発信することにより、大人から子どもまで文学に親しむ機会を拡大し、豊かな感性の育成と教養文化の向上に繋がります。		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	文学館企画展の入館者数 本市ゆかりの文学者や全国的に著名な作家などの展覧会のほか、文学に関連する企画展を充実させ、多くの方へ偉人・先人の業績を伝えます。 (最終目標と目標年度) 22,000人 毎年度	13,211 人	22,000 人		

活動計画	どうやって目的を達成するか より多くの市民に文学館の存在を知ってもらい、文学館に親しんでもらうため、文学館の本来目的である北九州ゆかりの文学者に関する自主企画展とともに、集客効果の高い(一般的な認知度と人気が高い)展覧会の開催に重点を置き、入館者数の増加に努めるとともに、北九州市ゆかりの作家の文庫本を発行します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標
	企画展等の開催回数 文学の振興、教育、普及とともに本市にゆかりのある文学者と文芸活動をより多くの市民に紹介する手段として、企画展などの開催件数を活動の指標としました。	4 回	4 回

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

P D C A チェックシート (平成 27 年度実績評価)

		担当局	市民文化スポーツ局		
		担当課	松本清張記念館事務局		
		課長名	福田		
		施策番号			
		IV - 4 - (1) - ②			
事業名	松本清張記念館研究センター・普及事業				
事業概要	<p>【研究センター事業】①松本清張に関するあらゆる資料を収集・整理し、松本清張の「人と作品」を研究する調査研究・資料収集事業を行ないます。②松本清張研究者に奨励金を贈呈する研究奨励事業を行ないます。③研究誌を発行します。</p> <p>【普及事業】①企画展を開催します。(年2回) ②講演会、読書感想文コンクールなどの市民文芸活動支援事業を行ないます。</p>				<p>■ 直営 □ 補助金</p> <p>□ 全部委託 □ 負担金</p> <p>■ 一部委託 □ 指定管理</p> <p>□ その他</p> <p>()</p>
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費
		12,812 千円	千円		目安の金額 課長 0.50 人 係長 1.00 人 職員 1.00 人 (人件費備考)

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	活動の状況としては順調です。今後も松本清張研究会の開催や研究誌の発行等により市内外への情報発信を図ることや、多様で新しい切り口で企画展等を開催することが課題です。	見直し内容
			さらに効果的な情報発信や魅力的な企画展等の開催を目指して、新たな研究・企画に取り組みます。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	市内外からの利用者	松本清張記念館は、松本清張の多岐にわたる創作活動を企画展等で体系的に紹介し、清張とその時代の研究を行なうとともに、市内外に情報発信し、来館者の増加と本市のイメージアップを図ります。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由
	松本清張記念館の入館者数 25年度に開館15周年を迎え、今後、大きな節目(21年度の生誕100年等)のない時期での入館者数の増加は厳しいと考えられます。より魅力ある企画展等の開催はもとより、市政だよりをはじめ、様々な機会を利用した情報発信に努め、入館者数の増加を目指します。 (最終目標と目標年度) 60,000人 30年度	49,575 人	60,000 人		
	企画展入場者数の満足度 来館者アンケートのうち企画展の内容についての設問で「非常に良い」「良い」といった満足度の高い評価の割合を高めます。 (最終目標と目標年度) 90% 30年度	85 %	90 %		

活動計画	どうやって目的を達成するか	開催した企画展の成果を分析し、新規入館者の増加及びリピート率の向上を図ります。さらに魅力的な企画展・特別展を開催します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	企画展開催回数	2 回	2 回		
	市民に質の高い作品などに接する機会を安定的に提供し、魅力ある企画展・特別展を開催します。				

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果)の分析 ※民間活力導入の視点</p>

P D C A チェックシート (平成 27 年度実績評価)

		担当局	市民文化スポーツ局	
		担当課	文化企画課	
		課長名	重岡	
事業名	事業概要			
	映像製作誘致強化事業			
事業概要	映画・テレビドラマ等のロケ誘致や撮影支援を積極的に行い、本市の知名度と都市イメージの向上を図ります。また、活動成果の市民との共有や、「映画の街・北九州」という新たな都市ブランドの発信により、街のにぎわいの創出や市民交流等のまちづくりにつなげます。			
	■ 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 ■ 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 () (人件費備考)			
コスト	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考) 平成26年度補正予算で計上し繰越したものの 8,000千円	人件費
	26,192 千円	千円		目安の金額 23,600 千円
		課長	0.40 人	
		係長	1.00 人	
		職員	1.20 人	

【Action】改善				
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	平成25年度は例年水準を上回る誘致実績及び直接経済効果を上上げ、本市の知名度向上に繋がることができましたが、他都市もロケ誘致に力を入れていることから、引き続き誘致を積極的に推進します。また、支援した作品を観光やにぎわいづくり施策に十分活用できていません。	見直し内容	観光客増に向けて作成しているロケ地マップや製作会社への営業ツールの改訂や、東京の制作会社への営業に加えて、海外に目を向けたプロモート活動も積極的に行っていきます。併せて、イメージアップや観光セクションや映画、文学等関連施設と連携し、都市イメージの向上を図り、観光や街のにぎわいの創出につなげます。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況		
	本市の知名度及び都市イメージ	映画・テレビドラマ等のロケ誘致や撮影支援により、本市の知名度向上および良好な都市イメージの構築を図ります。また、撮影誘致による地域経済への貢献や支援作品・ロケ地を活用した街のにぎわい創出、将来的にはロケの定着化により地域の映像産業・雇用の創出などを目標とします。	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック		
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由
	北九州フィルム・コミッションの市民への認知度	59.8 %	60 %		
	本市がフィルム・コミッション事業に力を入れており、映画やテレビドラマのロケの誘致を数多く行っていることについて、まず市民に知っていただくことが重要であると考え、指標として設定しました。 (最終目標と目標年度)平成30年度までに80%以上				
	地域経済への貢献(直接経済効果)	310,887 千円	110,000 千円		
	ロケを誘致し、撮影隊の本市への滞在を通じて、地域経済への貢献(直接経済効果)を高めます。 (最終目標と目標年度) 地域経済への貢献(直接経済効果)				

活動計画	どうやって目的を達成するか	本市の知名度と都市イメージの向上のためのまちづくりに活用します。また、支援作品を活用し、街のにぎわい創出や人的交流等につなげるため、市民のエキストラ・ボランティア参加を積極的に募集します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	撮影支援実績	30 件	11 件		
	都市イメージの向上ならびに交流人口の拡大等による地域経済の活性化、映像関連産業の集積を図るため、国内外の映画やドラマ、CMなどの撮影の誘致・支援を行います。				
	市民エキストラ・ボランティア参加(人的交流)	5,521 人	3,000 人		
	支援作品を活用した「まちづくり」を行うため、エキストラ、ボランティアスタッフ等への市民の参加を促進します。				

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

P D C A チェックシート (平成 27 年度実績評価)

		担当局	市民文化スポーツ局		
		担当課	市民活動推進課		
		課長名	山田		
事業名	市民活動団体等による環境未来都市推進支援事業				施策番号
					VI - 1 - (1) - ①
事業概要	北九州市環境未来都市計画では、「低炭素・省エネルギー社会の実現」「資源循環社会の推進」「少子高齢化社会に対応したまちづくりの推進」などが目標として掲げられています。この目標を達成するため、NPO等の新しい発想や専門性を活かした提案を募集し、提案団体と市が協働して取り組む事業を支援することにより、協働の促進を図ります。				<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
					(人件費備考) (人件費備考)
コスト	27年度当初予算額	27年度執行額	目金の金額	課長	0.10 人
	4,954 千円	千円	4,650 千円	係長	0.20 人
				職員	0.20 人

【Action】改善		
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 専門性・先駆性を有する団体が市と協働したことで、より効率的な事業が実施できました。さらなる協働推進のため、協働意識の向上や、事業のレベルアップが必要です。	見直し内容 「協働のあり方に関する基本指針」に基づいて、研修の充実により協働意識の向上を図るとともに、モデルケースとなる協働事例の情報発信を行い、事業のレベルアップに努めます。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) NPO等	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 北九州市環境未来都市計画の目標の達成及びNPO等と市の協働の促進を目指します。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	NPO等に対する補助金交付事業の件数(累計)	11 件	20 件		
	北九州市環境未来都市計画の目標の達成に向けた事業への補助金交付件数の累積を評価の指標とします。				
	(最終目標と目標年度)平成28年度までに24件				

活動計画	どうやって目的を達成するか NPO等と市の協働についての理解の浸透を図る研修を実施します。また、当事業の説明会開催、ホームページ・メールニュース・広報誌などにより、市内のNPO等に幅広く周知を図ります。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	成果発表会及びNPO等と行政との協働研修の参加人数(累計)	246 人	400 人		
	NPO等と行政との協働についての理解の浸透を図るため、事業実施団体による協働の成功事例についての成果発表会、及びNPO等と行政の協働研修を実施します。				
	補助事業のモデルケースの広報	-	1 回		
採択された事業をまとめた事例集を作成し、市民活動サポートセンターのHPで情報発信します。					

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点